

山桜會報

YAMAZAKURA-KAI

90th Anniversary

90周年記念号

第 77 号

2006 年 6 月

発行者
追手門学院校友会山桜会
会長 川原 俊明
〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-20
追手門学院小学校内
TEL 06-6940-3481・FAX 06-6940-3482
http://www.yamazakurakai.com/
e-mail office@yamazakurakai.com
© 2006 編集責任 松本 暁子



90周年記念総会・懇親会 90周年記念パーティ 90周年記念コンサート

6月25日(日)開催

10月29日(日)開催

11月 8日(水)開催

CONTENTS

表紙(前列右より)大木理事長、川原会長、福井総裁、秋山副会長、
後藤前学院長、伊勢田前小学校校長、土井前茨木中高校長、
亀井大手前中高校長、胸永事務局長、津田小学校校長) 1
祝校友会山桜会創立90周年(三宅彰東京山桜会会長) 2
山桜会創立90周年に想う(三宅彰東京山桜会会長) 3
山桜会創立90周年と学院創立120周年(大木令司理事長) 4
山桜会創立90周年を祝って(鈴木多加史学院長) 5
小学校時代の思い出(牟田実元会長・顧問) /
母校の将来を問う(生川紳一郎副会長) 6
次なる飛躍に向けて(秋山陽彦副会長) /
山桜会の輝きある未来に向けて(藤村敬副会長) 7
責任・誠実・実行(津田克彦小学校校長) / 拡がる絆(吉田茂幼稚園園長) 8
着任のご挨拶(岡本平茨木中高校長) /
校友会山桜会創立90周年に寄せて(亀井哲夫大手前中高校長) 9
山桜会と関わった思い出(酒井良之助元教諭) 10・11

陸軍の境界石(香山恭慶小83・大中高26) 12・13
90周年記念新年会報告(藤井良郎実行委員長) /
山桜古典寫真機同好會(櫻野起秀茨木中14・高36) 14
家庭の中の風水(女性部会) / 90周年記念チャリティーコンペのご案内(ゴルフ部会) 15
校外教授とグルメの会(東京山桜会) 16
90周年記念講演会「活力ある日本経済の実現に向けて」(日本銀行総裁福井俊彦氏) 17
創立120周年記念事業 校舎建設計画(森義和小学校教諭) 18
中等学校の近況報告(茨木 相馬すみひこ教頭・大手前 南登章生教頭) 19
二期会 / 大手前中高25期同窓会 / 小学校105期学年同窓会 /
佐藤良和先生傘寿のお祝い 20
茨木キャンパス便り(120周年記念事業事務局・平野昌雄大学校友会会長) 21
会員だより(原文人小76期) 22
90周年記念総会・懇親会 / 90周年・120周年記念コンサートのご案内 /
のれん会加盟店募集のご案内 23
山桜会90周年記念パーティ / 学院創立120周年記念グッズ・記念切手シート 24

祝 校友会山桜会創立90周年

山桜会 会長 川原 俊明



はじめに

今年は、追手門学院校友会山桜会にとって記念すべき年となりました。

山桜会は、創立90周年を迎えるに至りました。

1916年(大正5年)、追手門学院の前身である偕行社に赴任してこれた片桐武一郎校長によって、卒業生を対象に「桜会」を結成されたのが、現在の校友会山桜会の始まりでした。

それから90年。山桜会が、約3万人の卒業生を抱える大きな同窓会に成長しました。これも、すべて先輩たちの並々ならぬ努力のおかげです。

この紙面をお借りして御礼申し上げます。

90周年記念の意義は…

古き酒袋に新しい酒を盛る。

私達の役割は、90年という承継の重みを大切にしながら、さらに次の世代に追手門学院の伝統と愛校心を引き継ぐことです。

山桜会の活動が、「従前の踏襲」では発展もなく、かえって後退しかねません。

私達は、現在の山桜会組織力をフルに活用し、100周年に向けて、大きく歩み出す必要があります。

すでに、山桜会の現執行部は、2期目に入りました。スタート時点で目標と掲げたのは、卒業生による「母校に対する教育改革支援」でした。

新体制から5年目の現在、母校は、スタート時点と比較して飛躍的な進化を遂げています。その中に、私達が少しでもお役に立てたものがあれば幸いです。もちろん、各学校の内部では、先生方の血のにじむような努力が積み重ねられていたのです。一方、山桜会としては、先生方との懇談会を経て要望を学校に持ち込んだり、現役生徒には、先輩として私達の経験を伝えたりしました。生徒の学術的あるいは文化的な活躍に対しては、横断幕を提供するなどして、現役生徒の向上心を応援し、学院との関わりを深めてまいりました。

また、各学校の入学式や卒業式への参列だけでなく、茨木中高において、PTA・山桜会・先生方とのスポーツ大会を通じての交流、各学校の新旧PTAとの懇親会開催など、学院行事への関わりを増やして、山桜会の存在を学院内外にアピールしてきました。

学校法人の運営にも、学院理事会に2人の理事が参加し、卒業生として大きな発言力を確保しました。

90周年記念事業

今年に入ってから山桜会の事業は、すべて90周年記念の冠をつけて開催することになっています。記念新年会、記念講演会、記念総会、記念ゴルフ大会、記念シンポジウム、記念パーティ、記念コンサートなど…。

すでに、開催された新年会は、清酒「山桜」の鏡開き、小学校日本太鼓クラブの演奏で始まりました。山桜会創立の師・片桐校長のご子息をお招きできたことは、特筆すべきことです。

3月18日の記念講演会は、日銀福井総裁をお迎えしての講演でした。

日銀が資金流通政策について量的緩和の解除を発表した矢先だけに、参加者の関心も深く、記念事業としてふさわしい盛り上がりとなりました。

多くの山桜会の皆様方、そして学院関係者の皆様方の絶大なご協力が成功につながりました。誠にありがとうございました。

6月に予定されている記念総会・懇親会は、ジュニア委員会の人たちが中心とする企画が楽しみです。皆様、ぜひお誘い合わせの上、多数ご参加下さるようお願い申し上げます。

10月29日(日)の記念シンポ・記念パーティは、全学の代表者が一堂に会し、追手門の未来を語る画期的な企画を予定しています。

11月8日(水)の記念コンサートは、本学卒業生の世界的指揮者湯浅卓雄氏による大フィルコンサート。シンフォニーホールの1800の席を埋め尽くしたいと考えています。

次に向けての出發

90周年は、山桜会にとって、内なる改革の出発点でもあります。

教育改革支援を掲げて早くも5年が経ちました。

近時の山桜会の活動は、各委員会を中心に活動を強化してまいりました。委員会ごとに掲げる目標に向かって機能的な活動を進めるうえで、その効果は絶大なものがありました。しかし、一方では、委員会ごとの縦割り意識が強調されると、本来の決議機関である理事会、学年代表の意見集約機関である評議員会という全体としての機関活動が、疎かになりかねません。今のうちに、組織をもう一度見直し、体制を立て直すことが急務です。

山桜会の活動基盤である評議員会を活性化させるためには、すべての評議員を各委員会に吸収する必要があります。

評議員による委員会への全員参加目標を、さらに強力に実現すべく推し進めたいと考えています。

同時に、会員にとって、委員会活動を中心とする山桜会の活動に参加すること自体が、楽しくなければなりません。私達山桜会で活動する人たちは、みんなボランティアであり、活動の原動力は、愛校心がすべてです。

社会的に多忙な方々が、母校のために時間を割き、手弁当で山桜会活動を支えてくれています。

山桜会は、母校への貢献という一つの目的に向けて活動しています。世代を超えた共同作業に参加することより、大きな人脈を獲得でき、互いにボランティア活動の喜びを感じることができそうです。

私達は、山桜会創立90周年を機に、さらに卒業生の輪を広げて、一回り大きな山桜会に成長させようと思います。

山桜会の会員の皆様方はもちろん、すべての学院関係者のご理解とご協力のもとで、さらに大きな一歩を踏み出したいと考えています。

10年後の創立100周年記念事業を楽しみにしています。

山桜会創立90周年に想う

東京山桜会 会長 三宅 彰



追手門学院校友会「山桜会」が本年創立90周年を迎えたことは、真に慶賀に堪えない。山桜会は追手門学院の前身である、明治21(1888)年創設の大阪偕行社附属小学校の同窓会が、その発足の日としている大正5(1916)年1月30日の「桜会」結成のときから数えて、90周年に当るといふわけである。その桜会の結成をはじめ、それが昭和3(1928)年に母校創立40周年を期して山桜会の誕生となるまで、私学における同窓会の重要性を指摘しておられた校長の片桐武一郎先生のお骨折りに負うものであることを忘れてはならない。

片桐武一郎先生は大正2(1913)年5月に、当時の大阪偕行社社長(陸軍第四師団長)に乞われ、大阪市立道仁小学校教頭から転じて、大阪偕行社附属小学校第8代校長に着任され、昭和13(1938)年5月に辞任されるまでの1/4世紀にわたり各校長として指導に当られ、校名を世に高めたものであった。大正4(1915)年の校則改定により、学校設置当初は主に軍人の子弟の養成が建前であったものを、一般の児童も含めて小学校令に基づいた普通教育を施すこととし、校訓として「誠実」・「剛毅」・「自治」の三つを掲げて、片桐先生の教育理念を実践してこられたのであった。

私は昭和7(1932)年4月に大阪偕行社附属小学校に入学し、その後健康上の理由で一年余りは家に近い西宮市今津小学校に通学していたが、二年生の第3学期から偕行社附属小学校の原級に復帰して、昭和13(1938)年3月に同校を卒業しているので、丁度片桐校長の在職末期にその薫陶を受けたことになる。先生がスケールの大きな卓越した教育者であり、児童・保護者が心から信頼を寄せる人格者であったことは、小学生の頃から実感していたが、先生がまた管理者としても校内規則・体制の整備や施設・設備の充実などに優れた業績を挙げておられたこと等は、卒業後に理解できたことであった。昭和5(1930)年の校舍焼失後に、当時としては最新の設備を誇る校舍が再建されたが、私共は入学時からその恩恵に浴する最初の学年となったわけである。

着任初期には片桐校長の教育方針は偕行社本社から全幅の信頼を寄せられていたが、年月の経過と共に本社の責任者も交代し、世間の軍国主義化に伴って教育方針への批判も強まり、片桐校長の辞任に至ったことは、当時の歴史の推移からして避けられない事情であったとはいえ、母校にとって誠に不幸な次第であった。昭和20(1945)年8月の敗戦により、偕行社本社の解散は偕行社学院と改名していた母校の存続を揺るがし、廃校の危機に直面することになったが、当時の院長を始め多くの学院関係者による学校存続運動の結果、追手門学院として今日に至ることが出来たのは、戦前既に大阪府下第一の進学校としての名声が定着し、多数の有力な卒業生を世に送り出していた

実績が評価されたものであろう。

ところで、「山桜会」の今日までの歴史も決して順風満帆ではなく、母校が追手門学院として再生する前後の中絶状態をはじめ、度々の休眠と復興を繰り返してきたが、昭和32(1957)年に上田常隆会長(小24期卒)のもとで再発足し、翌年には「山桜会報」創刊号が発行されて、それが第77号の本号にまで至っている。同時期に、かねてから有志の集まりがあった東京で、緒方富雄会長(小25期卒)のもとに東京支部が発足し、昭和38(1963)年には東京山桜会と呼ぶようになった。私もその一人として総会に出席するようになったのが昭和44(1969)年頃からである。東京山桜会の発足に際しては、当時未だお元気であった片桐先生の在京者への呼び掛けに負うところが大きい。先生は毎年の総会に東京まで足を運んで下さっていたが、昭和48(1973)年10月病のため89歳で亡くなられた。東京山桜会は来年平成19(2007)年に第50回記念総会を迎えることになる。なお、東京山桜会の関連では、静岡支部が昭和63(1988)年に有馬良一支部長(小45期卒)のもとで発足し、12年間活動を続けられたが、平成12(2000)年にはその幕を閉じて東京山桜会へ吸収されることになった。

「山桜会」は追手門学院(その前身校を含む)卒業生の親睦団体であることは勿論であるが、同時に学院の後援団体であることを望まれて、母校創立90周年の昭和53(1978)年に同窓会から「校友会」に呼称変更したものである。度々の学院記念事業の時には協力を惜しまなかったし、最近では学院の教育支援にも積極的に関与するようになっている。私が在学した頃には小学校のみであったものが、今や学院は幼稚園から大学院までの総合学園となっている。同窓会としては学校毎の組織が母体となるのが自然であろうが、校友会としては幼稚園から大学までの卒業生全体の協力体制が欠かせない筈である。母校愛は卒業直後よりも、その後の他校出身者との交際を経験して強まる人が多いようであるが、その母校愛が是非学院全体に向けて拡がるように望みたい。私のように東京からでは事の詳細はよく分からないが、もともと校友会山桜会の大学支部であった現在の大学校友会とは、さらに緊密な関係となり、互いに大きな力を発揮してもらいたいことを切に願うものである。総合学園としては世に種々のタイプが見られるが、幼稚園・小学校から大学・大学院までの一貫教育を目指すのが理想的であろう。これは在校生の純血主義を望む意味ではないが、総合学園の一部局のみが世間に喧伝されるのではなく、学院全体のレベルアップを期するのが本筋と思う。校友会「山桜会」は学院のそのような姿を目標に、創立90周年以後を視野に入れて行くべきものと考えている。



山桜会創立90周年と 学院創立120周年

理事長 大木 令司

山桜会創立90周年をお祝いたします。

山桜会創立90周年おめでとうございます。

今年は山桜会創立90周年であるとともに、追手門学院大学創立40周年の年でもあります。学院創立120周年の2008年まではいよいよあと2年と迫りました。

既に山桜会では様々な90周年記念事業を実施、あるいは準備をされております。3月18日には、福井俊彦日本銀行総裁を招かれて記念講演会を開催され、成功裡に終わりました。この催し物は山桜会が主催されましたが、学院もこれに協賛させていただきました。

小学校の卒業生で指揮者として国際的に活躍をされている湯浅卓雄氏を招いての記念コンサートは山桜会、学院の共同主催となっております。母校の輝きは卒業生の輝き、卒業生の光は母校の光という考え方はこうした共同行動の中で象徴的に表現可能となります。

山桜会90周年記念事業委員会の委員長である秋山陽彦氏は「山桜會報」で「山桜会90周年は学院120周年の一環であり、しかもその引き金となるべきであると考えます。」と書いておられます。それは母校への支援を念頭に置かれた貴重なお言葉であると受け止めております。

苦渋の時代を越えて

学校運営と学校経営の間で…

追手門学院は「独立自強の精神」の涵養を教育理念としてきました。いわば自立の意識を育くみ、十分な学力を与えることを目標としてきたと理解しています。そして、生徒・学生の喜び、保護者の喜びを教職員、関係者の喜びとしてきました。

数年前に茨木・大手前の両中・高等学校で定員割れの現象が生じた時は、関係者に大きな衝撃が走りました。これが学院運営に対する根本的な反省をうながすことになりました。今では両校で志願者が増加し、入学者も確保されて極めて順調な結果を生み出しており、そのお陰で財政も急速に好転することとなりました。しかし、長い年月の推移の中で施設設備の老朽化が進んだため、建設事業の推進が必要となってきました。反省はいわば学校運営と学校経営の間に一線を画することに繋がったように思います。先生方の学校運営が学校経営とイコールであった時代は就学人口の急増期のことであり、急減期では民間経営の手法に学ぶ必要が生じたのです。この間の学校経営の見直しは苦渋の時でありましたが、教職員の方々や関係者の皆様方のご理解ご協力によって学院創立120周年記念事業の推進とともに光が見えつつあるのが現在です。

新しい学舎と新しい教育

目下、大学では、地上11階地下1階の中央棟と2階の6号館が立ち上がっています。竣工は年末から年明け。中・高は高校棟の設計内容について現在鋭意検討中となっています。生徒が増えた分手狭になっており、早

期の建設が望まれます。大手前中・高は仮校舎がつくられており、文化財の発掘調査がありますが、今のところ順調に推移しています。小学校も地上6階地下1階になる西館の設計図ができており、建設直前の段階までできております。幼稚園は1年半前に美しい校舎が出来上がっており、毎日沢山の園児たちの声に囲まれています。本学院の素晴らしい園舎を見ると、内心日本一の幼稚園だと思ってしまいます。新しい学舎が出来ることはそれ自体で喜ばしいことですが、それに加えて望まれるのは、子どもとともに、それにふさわしい新しい教育が入ることです。

学院施設を追手門ファミリーの拠点に

学院における地域連携の拠点として茨木にリエゾン・オフィスを立ち上げ、茨木市とも協定を結んで北摂地域を中心に連携を進めつつあります。しかし、この組織は残念ながら実質的に大学の拠点に止まっております。これから建設することになる地上6階地下1階の大手前中・高の新学舎最上階には、学院スペースが確保されており、追手門ファミリーの拠点としての学院施設が計画されております。卒業生とのつながりを強め、PTAに活用していただける、また地域との間に相互協力的関係を築くことが可能な活力ある施設を目指し、構想を検討して、既に一部準備を進めていただいております。

お金のある方はお金を、知恵のある方は知恵を、時間のある方や労力を惜しまれない方はそれを。120周年記念事業の推進の中で既にご協力をいただいておりますが、この学院施設は120周年以降の次代を担う拠点となるはずですので、同様のお力添えをお願いしたいと思います。

自己革新の持続によってさらに名門の名を

新しい栄光に向けて…

両中・高で定員割れが生じた時は、名門の凋落を嘆く関係者の声を随分多く耳にしました。志願者が増加し、入学者の確保が可能となり、財政が安定して建設事業を行うところまではしましたが、名門を完全復活するには教育内容を時代に対応して革新しなければなりません。幼小中高全てが名門の名を手にするためには、各学校での自己革新が必要とされますが、それを最終的に担保するのは大学の栄光です。危機感や危険に対する意識を払拭することはできませんが、ここまでの再生プランは想像していた以上に順調に進行してきたというのが実感です。

120周年の年である2008年が名門復活の年、第2の創業の年となるよう、各学校現場の先生方、職員の方に引き続きご努力をお願いするとともに、創立90周年を迎えられる山桜会の皆様方には、山桜会創立90周年と学院創立120周年の記念事業が結び合うことで、関係者全体が合一した新しい光が生まれるようお願いする次第です。



山桜会創立90周年 を祝って

学院長 鈴木 多加史

山桜会創立90周年おめでとうございます。ご承知のように、追手門学院の前身である大阪偕行社附属小学校は1888年(明治21年)に創立されました。第2次世界大戦による大きな体制の変革に遭遇し、母体の大阪偕行社は解散するという事態に直面しましたが、経営主体を変えて存続を図ることに成功し、爾来さまざまな曲折を乗り越えて総合学園として発展してまいりました。来る2008年(平成20年)には創立120周年を迎えようとしております。

卒業生の同窓会組織である校友会山桜会も、学院創立120周年である2008年に先立つ2006年に創立90周年を迎えることになりました。1916年(大正5年)に小学校卒業生のための同窓会「桜会」として発足した会が発展して今日の山桜会となり、創立90年を迎えたのです。今や山桜会の会員総数は約3万人、単なる親睦団体の枠を越えて非常に活発な活動を続けておられます。学院に対ししても、従来から物心両面の多大なご支援を戴いており、感謝いたしております。

山桜会創立90周年を祝うために、多彩な記念事業が計画されております。この記念事業につきましては、川原会長はじめ役員の方々方が非常な努力を傾注されており、この1年にわたってさまざまな行事が挙行されることになっております。すでにそのいくつかは挙行されましたが、いずれも成功をおさめておられます。

追手門学院は小学校から出発して今や幼稚園から大学院までを抱える総合学園に発展してまいりました。しかしご承知のように教育界は現在、非常に厳しい局面に立たされております。少子化の進展、規制緩和による競争の激化など、私学をとりまく環境は厳しさを増しております。小学校では関々同立のすべてが設立することになっているなど新設が続きます。また大学でも新設校が続くだけでなく、既存の有力校が学部を増設、既存学部の定員増を図るなど、受験者総数が減少していく中で学校にとつての競争条件はますます激化しております。その中で生き抜いていくためには学院一丸となって必死の努力を続ける必要があります。

追手門学院としましては、現在創立120周年に向けてさまざまな記念事業を進めており、それを契機として学院の発展を図ろうとしております。この追手門学院創立120周年記念事業が成功するためには、教職員の努力はいまでもありませんが、学院で学んだ同窓の方々のご支援も賜らなければなりません。

山桜会の川原会長は、山桜会の90周年記念事業は、山桜会単独の記念事業ということではなく、追手門学院創立120周年記念事業の一環としての重要な事業である、と指摘しておられますが、まさにそのとおりであり、それを成功させるためには学院を挙げて取り組んでいく必要がある、と考えております。皆様と共に努力してまいりたいと思っております。

私は2006年5月、後藤前学院長・学長のあとをうけて学院長・学長を拝命いたしました。この厳しい情勢下、時あたかも学院が創立120周年

OTEMON TAKUIN
120th
anniversary

記念事業を進めている最中にこの重責を担うということが、浅学非才の身に果たして可能であるかといささか危惧の念を抱いておりますが、学院に関連する皆様方のご支援を賜りながら職責を果たして参りたいと考えております。追手門学院発展のために、どうかよろしくご支援の程を御願いたします。

追手門学院創立120周年記念事業は、ハードの面としては老朽化した校・園舎の建替え、教室・研究室の増築、学園環境の整備など現在精力的に推進しております。一連の工事が完成すれば、学院のハードの教育環境はかなり整備されることになります。しかし環境整備として重要なのはむしろソフトの面であると思っております。この厳しい情勢下で、追手門学院が発展していくためには、絶えざる教育改革を進めていかなければなりません。この面につきましても、カリキュラムを刷新し、組織もそれに相応しいものに変える、優秀な教員の確保を図る、児童・生徒・学生支援体制の一層の拡充を図る、といった努力が全学院で進められており、かなりの成果も得られております。しかし、こういった努力には終わりがあつたわけではなく、さらに一層の向上を目指して改革を続けていくことが必要です。

このように現在追手門学院は学院を挙げて創立120周年記念事業を進めておりますが、120周年を迎えるのは小学校です。いうまでもなく小学校は学院の歴史の発祥の地です。その歴史ある小学校の同窓会組織として発足した山桜会は、学院の同窓会組織のなかでも最も歴史のある組織であります。90年という長い歴史を有する山桜会には、3万人の各界でご活躍の同窓生が結集しておられます。そのお力を、どうか追手門学院発展のためにお貸しください。山桜会の90周年記念事業を成功させることは、追手門学院創立120周年記念事業を成功させることにつながります。それがひいては追手門学院全体を発展させることになります。皆様のご協力を御願いたします。

小学校時代の思い出

山桜会元会長・顧問 牟田 実



私が大阪階行社附属小学校に入学したのは、昭和4年4月、学校は現在と同じ敷地で、二階建の木造でした。その頃、片桐武一郎校長は官舎に寝泊まりされており、校訓として「質実・剛健・自治」を掛けられておられた。当時は設備も良く、指導教官の行き届いた大阪一の小学校でした。

小学2年の7月理科教室よりの出火にあい、一夜にして学校は灰塵に帰し、子供心にもどうなることが案じられたが、早速、赤煉瓦の造兵廠の一部を仮教室にして授業はつづけられた。

片桐校長はその間、寝食を忘れて奮闘し、鉄筋コンクリート3階建の設計をはじめ電気、ガス、水道、暖房など付帯工事を含めて30万円の予算で、大阪城畔の一角に聳える教育の殿堂を構築し、昭和6年10月竣工、内部設備を整えて昭和7年4月に落成式をあげることができた。

同じころ大阪市議会は大阪城天守閣の復興を決めて、市民の寄付を募り、昭和6年11月7日完成祝典が行われ、大阪市内

は祝賀ムードに包まれました。生徒たちは引率されて天守閣に登ったことを覚えております。

小学4年の4月より転校生徒が数十名はいりクラスが「い組」と「ろ組」にわかれて私の「ろ組」は新任の根来四郎吉先生が担当となった。その後先生は山田四郎吉と改名され、戦後は大手前中高の教鞭をとり勤続50年のお祝いを教え子250名が集まって盛大に行われた。

昭和9年9月21日、大型の台風「室戸台風」が大阪市を横断し、木造の学校の多くが倒壊し、死者不明者3000人の大被害が出ました。その日は瓦屋根が飛び散る突風でしたが、本校では殆ど無傷でした。今から思うと4年前の火災で校舎を新築していたのが幸いしたのです。

昭和8年夏期の瀬戸内海・北九州地方見学旅行や昭和9年夏期の関東地方見学旅行も楽しい思い出です。今も山桜の紋章のある写真帖を保存しています。

母校の将来を問う

副会長 生川 紳一郎



山桜会の変遷は偕行社に始まり今日の追手門学院まで、90年間に共に歩んでまいりました。その歴史の中、母校の創生期から今日までの重要な学校運営の時期にかかわってきたことは、ご周知の方もおられると思います。私は学院70周年記念の時に、多大な功績を残された、上田常隆会長（当時/毎日新聞社長）が、私共の授業を参観されたり、各行事や朝礼にて、社会教育や礼節の大切さを唱えられていたことを、幼心にも印象に残っております。

数ある私学の中でも、母校や会員に対し、これほど卒業生が力を合わせ目的に邁進するパワーを持ち合わせている校友会は数少ないのではないのでしょうか。その個々のパワーの結集で、本年度は、山桜会90周年記念事業を遂行しようとしているのです。どうして、この時期にと疑問を抱かれる方もおられると思いますが、90周年記念の2年後に学院120周年事業が控えているのです。少子化を迎え私学多難を予想される時代の中、我々母校が21世紀に向け国際社会や時代の流れに即応した社会的有意な卒業生をさらに世に送り出さなければなりません。小学校から中学、高校そして大学を茨木の地に創立し、高校移転と最後に幼稚園という本学の歴史の中でも、引けをとらない重要な分

岐点になるかも知れないのです。100億円近い事業計画になる120周年は『追手門の革命』と言っても過言ではありません。ぜひ、卒業生の皆さん関心を抱いて下さい。この節目の時期に、我々役員一同は、会に多大なる功績を残された諸先輩方はもちろん、そしてこれから初めて参加される方や迷われている方も、ぜひ90周年記念事業に目を向けてください。諸般の事情にて不参加の方も、ぜひご支援やご声援よろしくお願いいたします。

公立の学校では、同窓会を開催するのもままならない状況であると伺っております。それに比べ同窓会を支援するのも山桜会なのです。お世話になった先生や母校に対して恩返しをするためにも、意見を結集し、学院に「母校の将来」を問いかけていくことが重要と考えられ、これからも人間教育・社会教育に貢献することを惜まず、成熟した山桜会が学院とともに繁栄していくことを期待いたします。学院は社会的有意な人材を如何に世の中に送り出すか、また品格の高い子どもたちを育てあげるかが担われた教育思想のもとで伝統が築かれて行くのだと信じております。どうか今後とも山桜会をご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

次なる飛躍に向けて

副会長 秋山 陽彦



本年の山桜会の最大課題である90周年記念事業は、各部会トップの指導力やスタッフの絶大な協力で何れも順調に進行しております。このうち新年会、記念講演会は皆様のお陰で盛況のうちに終了しました。このあと、記念総会・懇親会、記念パーティー、及びコンサートが行われる予定です。会員各位の更なる御協力を御願ひする次第です。

山桜会も単なる仲良しクラブから脱皮し、積極的に学校にかかわってこうという新たな目標を掲げて四年が経過しました。特に今期はその姿勢を明確にするため会則の一部を改正し、当会役員と学校法人の役員の任期を一致させました。学校が120周年を迎える再来年こそ、当会の方針の成果が問われる時だと思ひます。

一方、当会内部の充実も重要な課題です。親睦団体であるという本来の使命を忘れてはなりません。言うまでもなく、山桜会員は全てボランティアです。自分が卒業した学校に愛着を感じる人々が、年代を超えて平等の立場で活動に参加し、より良い方向を目指す。それには何の報酬も約束されていません。会則は必要最小限のこゝろしか規定していません。十数才から九十才を越える卒業生の方々

の中から、何らかの形で会の役にたとうと思つた人々が山桜会活動に参加して下さる。初めは何もわかりません。見よう見真似で先輩達の言動を追って試行錯誤しながら何とかついて行く。時には叱られ、時には甘え次第に山桜会の色に染まりながら成長して行き、いつしか追手門大好きになっている自分を発見するのです。そうなれば、もはや先輩も後輩もなく年代や経歴を越えてのお付き合いが始まります。それには10年が必要でしょう。山桜会は会社ではありません。力や才覚のある人が直ちに頭角を現す実力の世界でもありません。ボランティアは意見は言うが自我を押し通さないものです。長いお付き合いのうちに自然に融和が出来、少しずつだが前進していくものではないでしょうか。

山桜会に関わらせて頂いてかれこれ40年になろうとしています。今お付き合いしている方々は皆底抜けに追手門大好きで、ばか正直な人たちばかりです。そういう人達でないと山桜会は動かせないと思ひます。本会90年の歴史を振り返る時、卒業生の一人として改めてその重みと、この伝統を引き継いで行くことに重責を感じています。

山桜会の輝きある未来に向けて

副会長 藤村 敬



山桜会は、1916年(大正5年)、当時の片桐校長先生のご尽力により誕生し、2006年の今年、90周年を迎えることになりました。諸先輩方のご努力そして学院関係者の皆様のご尽力により、現在は会員数約3万人の、積極的活動を行う同窓会組織に成長致しました。

現在の山桜会の活動内容は、会員相互の親睦活動、母校への支援活動、会報の発行(年2回)、ホームページでのリアルタイムな情報発信など多岐にわたる活動内容となっており、この活動は理事、評議員を中心に山桜会会員のボランティア活動によって支えられております。

今年は、山桜会創立90周年として記念事業を開催しております。1月28日に開催されました90周年記念新年会におきましては、300名を超える参加者の中、片桐校長先生の御息の片桐昭様をお招きし山桜会発足の感謝の意を表しました。また、3月18日に開催されました日銀総裁福井俊彦氏講師による90周年記念講演会は、山桜会会員だけでなく学院関係者、PTAの方も多数ご参加いただき、オール追手門の600名を超える参加者の中、わかりやすく充実した講演会となりました。90周年記念事業は、山桜会会員、そして学院関係者の皆様のご理解とご協力を賜り、順調に遂行されております。ここに改めて感謝申し上げます。

今後も90周年記念事業は、記念総会(6月)、記念ゴルフコンペ(9月)、記念パーティー(10月)記念コンサート(11月)と予定されております。

この90周年記念事業に、多くの山桜会会員の皆様にご参加いただき、追手門学院の持つ温かみのある空間で、同級生と語り、恩師との思い出に花を咲かせ、そして追手門学院の持つ素晴らしい伝統、文化、精神に触れ、再認識していただく機会にしたいと考えております。より多くの山桜会会員の皆様が、この90周年記念事業に参画、参加していただくことが、この記念事業の一番の成功であると考えております。

この山桜会創立90周年を機に、追手門学院の持つ素晴らしい伝統、文化、精神を、卒業生である山桜会会員が再認識し後輩に伝承するとともに新しい伝統を創造していくことが山桜会として大切な役目であると考えております。少子化という時代背景、私立学校競争激化時代の中、山桜会が、追手門学院の持つ伝統、文化、精神を、学校に、現役の生徒の皆様に、そして社会に示し認識していただく役目を果たすことが、追手門学院および山桜会の更なる発展につながるものと確信しております。2年後の2008年には追手門学院120周年、10年後の2016年には山桜会がいよいよ100周年を迎えることになります。山桜会創立90周年を機として、また90周年記念事業を通して、追手門学院および山桜会がより発展し、今迄以上に輝きの持つ追手門学院、山桜会として、山桜会100周年を迎えられます様、山桜会会員の皆様にご更なるご支援、ご協力を賜ります様よろしくお願ひ申し上げます。

責任・誠実・実行

追手門学院小学校 校長 津田 克彦



今年度、伊勢田前校長よりバトンを受け、校長に就任しました。伝統ある追手門学院小学校の校長ということで、その責任をひしひしと感じると共に、少しでも学院の発展に貢献できたら幸せに思います。

まず、はじめに「山桜会90周年おめでとうございます。」心よりお祝い申し上げます。昨年から福井日銀総裁の講演会をはじめ多種多様な取り組みをされ、その実行力には敬服しております。これからもますますのご発展をお祈りいたしております。

さて、学院は平成20年に創立120周年を迎えます。小学校も120周年に向けて第4期建設計画を進めています。1期東館、2期北館、3期本館と続いてきた校舎建設計画も、今回の西館（専科棟）建設で完成します（建設の詳細はP18をご覧ください）。平成19年春頃から西館の取り壊しを始める予定です。西館を取り壊しますと昭和時代に建設した建物がすべて新しくなります。1年生教室で使用している木の机は一部残すつもりはしておりますが、卒

業生の皆様にとって思い出の教室がなくなります。取り壊す前に「さよなら西館」の催しを行う予定です。学校報やホームページ、山桜会会報で広報しますのでぜひご来校ください。

さて、いま関西の私立小学校が乱立する中、私は「責任・誠実・実行」を教育のモットーとして、118年の伝統を守りつつ、さらに追小教育の近代化を図り、21世紀に勝つ強い力強い体質を身につけて行きたいと考えています。教育理念である「社会有為の人材の育成」を念頭に置き、教育目標である「敬愛」を「人を愛し、物を愛し、自分を愛する心」とし、「剛毅」を「自分に克つ自分作り」とし、「上智」を「何事にも挑戦することができる学習力」として21世紀にリーダーとして活躍できる人材を育てていきたいと思っております。

小学校にとりましても山桜会の会員の皆様のご協力なくして学校の発展は考えられません。どうか今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

拡がる絆

幼稚園 園長 吉田 茂



輝かしい伝統ある山桜会が九十周年を迎えられること、本当におめでとうございます。

私が小学校で担当した90・94・105・109期生の学年同窓会が、今年相次いで催されました。90期生は（聞かれたら言うが、自分からはあまり言いたくない）40歳。109期生は（まだ実感がわかない）ピカピカの20歳。110記念ホールで成人式を挙行了しました。

ちょうど油がのり切り、各分野で中核として自分の歩みを進める先輩に、エネルギーあふれる二十歳代の後輩が続くという素晴らしい連続性を感じました。



そこに、社会を切り拓いてこられた大先輩方が力強く牽引される山桜会。奥行きに改めて感じ入りました。

さて、このたび貴会より幼稚園へ、「幼稚園教育振興資金」として多額のご芳志を頂戴し、先般挙行了しました幼稚園の卒園式で、来賓として川原会長にご出席賜り、贈呈式を行いました。

大学では2007年から全入時代に突入すること。少子化の洗礼を一番初めに受けた幼児教育機関は、その影響が出始めて既に15年程経ちます。

本園では2004年8月に新園舎を完成させ、加えて教育改革に着手して3年目を迎えます。これからは、どういう子を育てるかというより、どういう子が育ったかという観点がますます重視されます。

ご奉仕頂きました資金は、園児たちの日々の教育に役立つよう、大切に使わせて頂きます。また、これを機会に総合学園として、幼稚園と小・中・高の結びつきがより強くなりますようよろしくお願い致します。

終わりにりましたが、貴会の益々のご発展を誠心お祈り致します。

着任のご挨拶

中・高等学校 校長 岡本 平



山桜会会員の皆様には、平素より本校の教育に対して、ご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。このたび、土井邦孝前校長のご退任のあとを受け、追手門学院中・高等学校長に就任いたしました。前校長同様、よろしくお願い申し上げます。今後の教育方針について、3点申し上げます。

第1は、魅力ある学校づくりであります。

明るく、楽しく、前向きな、響きあいのある学校が求められています。明るさには、物的な太陽の明るさと、心的な心の豊かさがあります。他人を思いやる心から発する優しい言葉や行動が学校全体を明るくします。学ぶ楽しさ、喜びを味わい、級友、先輩、後輩との友情を深め、助けあい、学びあい、響きあいたいものです。現状維持は、退化につながる可能性があり、常に前向きで、積極的な考え方が必要であります。

第2は、高い学力の養成と豊かな人間性の育成であります。

これらの教育目標を達成するためには、生きる力を育むことであります。生きる力とは、様々な困難に直面しても、常に夢や希望をもつ

て、積極的に立ち向かっていく心や態度、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力などです。また、自ら律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や、感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力などです。

第3は、主体的な進路選択能力の育成であります。

それぞれの能力・適性、興味・関心などにあった進路を、自分の将来の生き方に照らして、自分の意志と責任で主体的に選択し決定することができる能力の育成が求められています。何になりたいか、何故になりたいか、なるにはどうするか、なれるか、なるべきか、という5ポイントについて考えさせることが肝要であります。将来の生き方について考え、できるだけ早く、進路目標を決定し、その実現に向かって、全力投球することが、何よりも大切です。

教職員一同、力を合わせ、心をつなげて、生徒たちの教育に専念する所存でありますので、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

校友会 山桜会 創立90周年に寄せて

大手前中・高等学校 校長 亀井 哲夫



歴史と伝統というものは一朝一夕につくられるものではありません。町並みや里山でも、そこに生きる人その長年の美しい生活があつてはじめて温かい心うつ景観や風景が醸し出されてきます。

歴史と伝統はお金で買うことのできない無形の貴重な財産といえます。

追手門学院は明治21年の偕行社附属小学校以来、他にない突出した風格のある教育で、名門校として揺るぎない名声を博してきました。

このことは学校での教育だけではなく、それを実際に生かしておられる卒業生の方々の社会での活躍が大きいといえます。

そういう意味でいえば、同窓会組織の果たす役割は重要で大切といえます。

追手門学院の名声は校友会山桜会に負うところ実に大きいといえます。

偕行社は陸軍の将校クラブが母体となった組織ですが、将校と下士官・兵の違いは、将校には上官の命令がない時に「独断専行」が許されていることにありとわけています。

追手門学院の教育理念の「独立自^{じきよう}彊」の精神と通じています。いい学風というものには静かにしかし着実に形作られていくようです。

100余りの大阪私学のなかで私学としての個性的な雰囲気が強くて「追手門らしい」という言葉が追手門学院にはあります。それは私学全体が時代の流れの中で標準化していくことは避けられない状況下で、追手門学院がその個性を保持しているのは、やはり伝統の強さといえるでしょう。

昨年、中学生に実施しました「将来を考える日」には、心よく山桜会の皆様にはお話しのお話を引き受けていただき感謝しています。

教育は学校の先生だけでなく、色々な人から生徒たちが刺激を受けることも大切だと思います。

先輩の方々から直接生の声で、フェイスツーフェイスでやさしく仕事の面白さや昔の学生生活の話のなかから生徒たちは生き方を学ぶことができたのではないかと思います。

まさに卒業生の方々は大切な人的資産といえます。私達はこれからも社会にとって必要とされるような人達を育てていかなければならないと思います。

そして今後とも校友会山桜会の充実発展を願うとともに追手門学院の名声を高めるよう努力してまいりたいと思います。

山桜会と関わった思い出

酒井 良之助 元教諭・小学校48期



私が偕行社付属小学校に入学したのは1931年で、前年に学校にほとんどを焼失する火災があり、新入生は仮教室に入れてもらえた。この年に完成した大阪城天守閣と競うように翌年に新校舎が建設され、竣工式典の日に講堂・体育館棟の玄関が紅白の幔幕が飾られていたのが妙に記憶に残っている。当時の学校建築としては最高峰と言われた新校舎が二年余りで再建された片桐武一郎校長をはじめ関係者の努力には頭の下がる思いがする。さて山桜会の存在が分かってきたのは卒業近くになってからである。しかし私が卒業した後で日華事変が始まり軍部の教育干渉が激しくなり、翌1938年創立五十周年式典をすまされたと片桐校長は辞任された。その際先生は整備に務められてきた卒業生名簿に基づき『山桜会会員名簿』を発行された。これが本会会員名簿の第1号である。戦後追手門学院となって創立七十周年記念に発刊された『七十年志』に片桐先生が執筆された山桜会についての記載によると、山桜会は1900年に入ることには成立していたが、その活動は停滞して久しかった。そこで1913年に着任された片桐校長は着任後の卒業生をもって1916年1月30日に「桜会」を設立された。その育成をまって1928年に山桜会が桜会と合併するという形で山桜会の復興が実現した。この桜会設立の日が山桜会発祥の日とされることになったので2006年の今年が90周年となる。

卒業後は戦争と戦後の混乱の時代が続き母校とは無縁になっていたが、1951年に母校を訪ねたところ恩師山田四郎吉先生の手引きで新設されていた母校の中・高校の教壇に立つことになった。母校は八束周吉学院長の下で着実に発展し、1958年に創立七十周年を迎えるようになる。これに応じた片桐先生と先生の委託を受けた上田常隆氏(1963年卒)を中心に有志の努力で1957年に山桜会が再建され『山桜会報』が創刊された。記念式典の日には小学校の一教室を山桜会展示会室として会員から提供された品々が展示された。私も六年間の生活が全て記録される小学校時代の『児童手帳』などを寄贈させてもらった。また個人ごとに会員カードを作成し、翌年に戦後最初の会員名簿が発刊された。しかし山桜会の最大の課題は財政基盤の整備で、新卒業生の終身会費の額を勘案せよと命じられた。会報発行、総会などで一年に会員一人当たり100円ほど必要で、定期預金金利6%で50年間このサービスを提供するとして算定した結果、入会金と終身会費とで2100円が妥当と上申し、これに準じて卒業生にも負担をお願いすることが会則に定められた。

七十周年のころから学院では財政、教育機構の改革が課題となり、安保闘争の世相とともに揺れ動いた。1960年に退職された八束学院長の後任学院長の先行が難航し、1962年に上田山桜会長が学院長事務取扱に就任された。しかしその直後に毎日新聞社社長の重責を背負われたのは学院と山桜会にすれば多大の痛手となった。

1964年に上田氏の尽力で天野利武大阪大学文学部長が東京オリンピックの最中に学院長として赴任、大学の開設と高等学部の校外移転が急務であるとして、これを核とした創立八十周年記念事業を提唱され、記念事業後援会が組織された。山桜会もその一翼を担い、当時の南部知伸(1922年卒)会長は片桐先生とともに募金に奔走された。こうして1966年に茨木の

安威丘陵に大学が開学、翌年に高等学部の移転が完了した。ただし高校の一部は大手前に残存し、茨木にも中学が新設されて、現在の茨木中高、大手前中高となった。また学院長の配慮で大学管理棟の一室を山桜会の事務室として使用できることになった。記念式典は1968年11月に高松宮ご夫妻を迎えて挙行された。刊行された『八十年志』に山上重信先生が「桜会」発足以来の山桜会の動向を年表で詳細に記載されている。先生の依拠された資料の行方が現在分からなくなっているのがまことに惜まれる。

1970年になると大学一期生が卒業し、翌年に山桜会大学部会として「将軍山会」が結成され、その役員が山桜会の役員を兼ねることとなった。これを機にそれまで筆頭常任理事として会務全般を取り仕切られていた林匡夫氏(1933年卒)から後事を託されることになった。その最初の大変な仕事は1972年に天野学院長から大手前校地の売却と箕面移転という将来計画案についての打診があり、それに対応することであった。会報特別号を送付して会員から意見を聴取し、評議員、理事の合同緊急会議を招集し、開陳された意見を学院長に伝えた。その会議の熱気は今も忘れられないもので、計画案は後に撤回された。植野武雄(1917年卒)会長はご心労激しく、1973年に和田種久氏(1925年卒)と交替された。その7月、片桐先生から学院長に会いたいので迎えに来て欲しいとの連絡があり、京都下鴨のお宅から茨木まで車でのお供をした。ご用件はつましい生活の中で蓄えられた浄財百万円を学院教育に寄付されるため、この御芳志は小学校図書室に片桐文庫として伝えられている。先生はその後で何度目かの入院をされ、10月5日に逝去された。その報は後日『あの世からのご挨拶』という葉書で伝えられた。死去の直後に伝えたものでは沢山のの人に迷惑をかけるかと御遺志からである。丁度会報17号の最終校正の最中で、浄財ご寄付を伝える記事の一部を割いて緊急報告としてご逝去の記事を挿入したことを覚えている。

林先輩ともよく話し合っていたのは事務組織の確立である。事務室は小学校の講堂入口の脇にある小部屋を借りていたが、不便なので大手前中高の進学指導室の一部を仕切って貸してもらったりと苦労した。しかし最も困ったのは会員カードの不備である。当時は会報の発送には宛先をガリ版で印刷する宛名印刷の業者があり、変更があると会員カードを訂正し、それを業者に渡してガリ版を訂正してもらう。ところがそのカードを見つけたのが大変で、重複と欠落が相当生じていた。なにしろ小だけ・中だけ・高だけの卒業生、小と中・中と高の卒業生、小と中と高を卒業された方と6種類があり、まれに小と高を卒業した方もいる。それで1973年の夏休みに全会員のカードを家に持ち帰り、会員名簿も参照に新しく考案したカードに記入し直した。X年小卒、X+3年中卒、X+6年高卒の方を1グループとして重複を防ぎ、五十音順に配列してナンバリングで会員番号をつけていく。最初の一桁が明治、大正、昭和戦前、昭和戦後の識別数、次に二桁が年代、後半の三桁が個人の番号6桁であった。1975年から総会はシティホテルを使用するようになり、その年は将軍山会の協力もあって総会出席者は五百人に達した。この時の出欠回答葉書でカードを総点検し、凸版印刷(株)と契約してコンピューター処理を導入した。

1978年、創立九十周年を前に天野学院長が退任され、山桜会は山

本巖氏(1927年卒)が会長となり、翌年に理事会で「同窓会山桜会」と称していたのを「校友会山桜会」と改めた。さらに11月の総会で学院に対し「百周年時点での学院のあるべき姿を提示されたい」と要請する決議が採択された。この要請は学院として簡単に回答できるものでないのに、1979年9月の理事・評議員合同の役員会は緊急議案として「学院内が正常であると判断し難いため九十周年記念事業に係わる募金活動への協力を凍結する」ことを決議した。事前の議事案内の記載はなかったので私は学会参加で欠席し、この暴挙を阻止しえなかったのが私の山桜会活動で唯一悔いに残るものとなった。これを主導した僅少の役員の意図は不明だが、山桜会としても一大汚点になったと言える。こうした状況に片桐先生の遺徳を想う有志が、先生の主治医であった小山弘氏(1934年卒)、前出の林匡夫氏、牟田實氏(1936年卒)の呼びかけに応じて「片桐先生を偲ぶ会」を結成し、『片桐武一郎先生』が翌年に上梓された。

この募金凍結の流れに続いて1982年に入ると将軍山会との間に不協和音が発生し始め、翌年に増井正氏(1948小、1951年中卒)が会長事務取扱として事態の收拾に当てられたが、1984年4月に将軍山会は一方向的に分離独立を宣言するにいたった。その直前に前出の牟田實氏が会長となり、募金凍結を解除して学院との関係を修復され、山桜会の活性化に努められた。1986年の役員改選では副会長3名と常任理事9名は追手門になってからの卒業生で、常任理事で偕行社の卒業生は私一人となった。その私は将軍山会の独立宣言の前日に追手門学院を退職し、短大講師とカウンセリングの仕事についていた。会長の努力で大手前中高の体育館の隣の部屋を事務室に借用でき、時給事務員を公募した。会長のお宅で応募者数名と面接し、能筆で誠実な女性を採用することができた。翌年学院では浜守小学校校長が百周年記念事業事務局を兼任し、その事務室が小学校本館の二階に設けられ、山桜会も同居する事になってやっと居場所が定まった思いがした。浜守局長からは記念事業の一環として卒業生の動静把握を学院として実施したいとの要請があり、1988年3月に山桜会方式を踏襲することで同意が成立、システム運用は日本電子計算(株)が担当することになった。

その後で学院長の交替、浜守局長の退職があり、昭和天皇の御重体による自粛ムードが重なって百周年記念事業は大幅に縮小された。その事業の一つであった大阪城公園の記念植樹は山桜会が協賛することになった。今

も大阪城の京橋口を入ったところに山桜の園があり、記念碑が建てられている。記念総会は11月に開催され、その日に『記念会員名簿』と『復刻版・山桜会報』が発行された。復刻版は創刊号より第43号までの会報の主要な紙面をそのまま一冊に収録したものであるが、創刊号が事務室になく困っていたところ、牟田会長が保管されていたのが分かった時は本当に有難かった。そしてこの総会で将軍山会を分離し、そのための会則改定が議決された。

翌年梅垣健三氏(1934年卒)が会長として牟田前会長の方針を継承され、1990年の総会には実行委員会が組織され、若い会員が多数委員として活躍した。この委員会方式は次第に山桜会執行体制に浸透していき、1992年からは総務、財務、広報の三委員会が設置された。広報委員会は会報を現行のタブロイドサイズに改め、卒業生の動向管理について日本電子計算(株)と交渉を進め、事務室にパソコンを設置した。また会長と同窓である山岡吉郎兵衛氏(1934年卒)がその年頭に卒業生やPTAに呼びかけ開催された「好っきゃねん追手門」を翌年から「山桜新年会」として継承することになった。今でも新年会にはPTAの方が出席されている。翌年には将軍山会との関係修復のため砂原英雄氏(1929年卒)を議長に「追手門学院校友会連絡協議会」が設立され、何度か会合が重ねられたが、はかばかしい結果が得られたとは聞いていないのが残念である。1995年の新年会は二日前に起こった阪神淡路大震災で中止になった。幸い学院はほとんど被害がなく、百十周年記念の準備が進捗したが、記念事業としては小学校本館・講堂の立て直しが主たる事業となった。65年間にわたって偕行社・追手門の教育を支えてきた学舎が姿を消すのにはやはり感無量のものがあつた。

百十周年の1998年を迎え新会長吉本晴彦氏(1936年卒)のもとで委員会の組織化が一層進展し、各委員長が常任理事となり正・副会長のもとで実質的な運営に当たることになった。9月に竣工した小学校の新本館の一部に山桜会室が設けられたのは感謝に耐えない。

そして21世紀に入った年に川原俊明氏(1960年小・63年中・66年高卒)が会長に選任され、山桜会も追手門卒業生の時代になったと言える。実は川原会長は高校時代に担任させてもらったので、教え子が会長としてさらに充実した委員会で活躍される若い会員とともに山桜会を盛り上げてくれるのは教師冥利につきるといえる。吉本会長の時から私は評議員にしていたが年齢のこともあって喜んでいて、山桜会の将来も若い会員諸氏に託すことができるようになったので、この辺で思い出の手記も筆をおきたいと想います。

ランドセル・スクールバッグ関連・その他バッグ全般、企画・総務



URL: www.i-chikyu.co.jp

創業80年の信頼と実績

株式会社 池田地球

大阪 〒541-0057 大阪市中央区北久宝寺町1-2-8
TEL (06) 6262-0451(代)

東京 〒111-0053 東京都台東区浅草橋4-10-8
TEL (03) 3851-1848(代)

ぼん繁

天満橋本店 〒540-0008 大阪市中央区大手前 1丁目6-7 TEL 06-6943-9361	北浜店 〒541-0041 大阪市中央区北浜 2丁目2-22北浜中央ビルB2 TEL 06-6231-9801
--	--

+++++

繁蔵本店
〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町2-15
岡本ビルB1F
TEL 06-6943-1446

有限会社 ぼん繁 代表取締役 **本田 司郎**
〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目6-7
TEL 06-6943-9361 【事務所】TEL 06-6941-4646
FAX 06-6941-5845
bonsige@livedoor.com shige_zo@livedoor.com



NIPPON KYOHAN

日本鏡板工業株式会社
〒555-0012
大阪市西淀川区御幣島6丁目12-12
<http://www.nkweb.co.jp/>

陸軍の境界石

小83・大中高26 香山 恭慶

本院の大手前校地の南西角は誰言うともなしに「三角地」と呼んでいる。

その三角地の上町筋側、歩道橋を降りたあたりに御影石でできた境界石(境界標)がたったひとつひっそりと佇んでいるのをご存知だろうか。長年の風雨にさらされ、生徒たちに傘でつつかれ、靴で蹴られつづけたのか、さすがに上部の四隅は角が取れているが、どこいじっと境界線を示している。[写真1] その境界石の側面をよく見ると「陸軍」の二文字が彫られている。[写真2]



▲[写真1]



▲[写真2]

確かにこの土地は偕行社があった場所なので、所有者は陸軍省だっただろうということは容易に推測できるが、

何のためにあるのか? いつ頃からあるのか? そして誰が?

と思ったので、調べてみた。

土地の境界を示す標識として土地に埋め込まれているものを境界標というが、調べると天平年間まで遡る。偕行基は、聖武天皇の勅を奉じて「境の地に炭を埋めて境界を正し...炭は地中に在りては万代不朽のものゆえ、境の地に炭をうけて後来の証とすることこの時をもって始めとす。」(地方凡例録上巻)との記録があるが、一般的には、明

治初年の地租制度が制定された頃からこうした境界の認識が生じたと思われる。

しかし、この陸軍の境界石は、その頃敷設されたものであろうか。地租制度は一般国民から租税を徴収するための制度であって、陸軍が所有する土地は国有地であるので、課税対象の土地ではない。従って同制度のもとでは境界を明確にする必要はなかったはずである。

その後明治23年に登記法が制定されるまで、土地の売買等は、地券の裏書きをもってなされていたが、これも官有地であれば不必要なものであった。しかし土地台帳規則(明治22年3月22日勅令第39号)によれば、官有地であっても道路、河川、溝渠を除き地番を付して土地台帳を作成することとなった。土地台帳を作成するには、面積を確定する必要がある。そこで、この境界石が作られあの場所に埋められたのであろうか。

まずは、大阪法務局に出向いて土地台帳を調べてみた。[写真3]

東区京橋前之町2番 官用地 1193坪7合 所有者 陸軍省

とあり、もちろん地租の欄は空欄。

でもこの台帳はいつできたものであろうか。登記年月日に大正の文字があるので、明治時代のものではない。古老司法書士に尋ねると、どうやらこの土地台帳は、大正時代に用紙の様式が変わったため、移記されたものであることがわかった。明治時代の土地台帳とは様式が違うとのこと。

しかし明治時代の土地台帳は保存期間満了にて閲覧することは叶わなかった。

土地台帳には台帳附属地図というものがあるので、その写しを取る。[写真4]確かに偕行社と明記してあるが、民有地に接する北側のラインはある程度明確であるが、南側のラインは不明確のままである。ま

医療法人
木本内科

院長 木本 渺夫

所在地 大阪府泉南郡熊取町和田1-1-15

TEL 072-453-3050

E-mail kimotonaika@rinku.zaq.ne.jp



〒542-0012
大阪市中央区谷町6丁目1-16

TEL : 06-6763-0234

FAX : 06-6763-2416

<http://narukawa-co.com/>

素晴らしい旅・未知との出会い
OSAKA
HATOBUS



大阪緑風観光株式会社 大阪はとバス

〒533-0005 大阪市東淀川区瑞光4-3-3

TEL 06-6329-1912 FAX 06-6326-0137

たこの地図の作成日はわからなかった。

また、古老司法書士がいうには、登記簿を起すときには、この土地台帳の写しを添付して所有権保存登記をしたものだ。というので、次に登記簿を調べてみた。[写真5・6]ラッキーなことに明治時代の登記簿がまだ保管されていた。東区京橋前之町2番の土地の甲区壱番の欄を見ると

保存 受付 明治41年4月8日第2120号
所有者 陸軍省

とある。因みに甲区貳番の欄を見ると

移転
受付 昭和24年5月31日第7123号
原因 同年4月30日売買
取得者 大阪市東区京橋前之町2番地
財団法人 追手門学院

(注) 財団法人追手門学院は昭和26年3月12日に組織を変更し学校法人追手門学院になったことが登記簿からみてとれる。

今となっては推測の域を出ないが、このことからこの境界石は少なくとも明治41年には存在していた可能性が高い。それと、境界石がひとつだけということは考えられない。

敷設当時はあちこちに存在していたと思われるが、残念ながら現在では唯一つ残るのみ。

そして、この境界石の施設作業をした者は誰かと考えると、陸軍省の内部組織である陸地測量部であろう。この陸軍陸地測量部というところは、日本における50,000分の1地形図を、明治25年から大正13年のあいだに作成するなど日本における測量技術の最先端技能集団であった。またその技術は第二次世界大戦後、国土地理院に受け継

がれ、海岸線や土地利用、さらに行政界などの変化に応じて測量や修正がつけられている。

このような輝かしい経歴を持つ陸軍陸地測量部が敷設した陸軍の境界石が本学院に現存するということが驚きである。それも今となってはまず二つと存在しないものであり、歴史の生き証人として貴重なものには違いない。また教育的観点から考えても、当学院の歴史のみならず、日本の地図作成および土地測量技術を知る教材としても稀有な財産と考える。現在中高の校舎建替工事が進んでいるが、偕行社の遺構である煉瓦と大谷石でできた外堀とともにこの境界石は是非とも保存してもらいたい。



▲[写真3]



▲[写真4]



▲[写真5]



▲[写真6]



各社教材特約店
教材教具一式

株式会社 八倉商店

〒540-0001 大阪市東区深江北二丁目五番八号
電話 06-6312-6321 FAX 06-6312-6320
FAX 06-6312-6321

教育とコミュニケーションの環境を創る



株式会社 青井黒板製作所

〒530-0047
大阪市北区西天満6丁目5番8号
TEL 06(6312)6321 FAX 06(6312)6320
URL: <http://www.aoikokuban.co.jp>
E-mail: info@aoikokuban.co.jp

90周年おめでとうございます
株式会社ベッセル

代表取締役

田口 順一

(78期)

〒537-1000
大阪市東区深江北二丁目十七番二十五
TEL 06-6169-7611 FAX 06-6169-7611
TEL 06-6169-7611 FAX 06-6169-7611

山桜会90周年記念 新年会 報告

90周年記念新年会実行委員長 藤井 良郎



山桜会会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃は山桜会活動に対しまして、ご理解ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、会員の皆様方の温かいご支援のもと、平成18年1月28日(土)にリーガロイヤルホテル山楽の間にて山桜会90周年記念新年会が開催されました。学院からは大木理事長、各学校長はじめ多くの来賓の方々、また元校長先生はじめ恩師の方々、そして多くの山桜会会員の皆様にご参加いただき、総勢300名を越える盛大な新年会となりました。

山桜会90周年を祝う新年会は、山桜会90年に亘る歴史のナレーションに始まり、山桜会創立にご尽力いただきました片桐校長先生のご子息片桐昭雄への感謝、そして今一番若い山桜会会員(小114～116期生日本太鼓クラブOB)によるお祝い太鼓の心に響く迫力ある演奏と続く厳粛な雰囲気の中、鏡割りから90周年記念の升による乾杯により、新年らしい華やかな幕開けとなりました。



その後は、元校長先生をはじめとする恩師との語らい、そして同級生との語らいの楽しい雰囲気の中で、メインイベント志賀昭裕氏によるアルパ(インディアンハーブ)の演奏が行なわれました。アルパの持つ独特のやさしく美しい音

色は、私達の心を和ませ、そして感銘を与えてくれる素晴らしい演奏となりました。豪華景品抽選会の後、出席者全員による母校校歌斉唱、そして最後は大阪締めで、最高の盛り上がりの中で幕を閉じることができました。

この新年会を盛大に開催することができたのも、半年にもわたる準備にご尽力いただきました新年会実行委員の皆様、当日お手伝いいただきました理事、評議員の皆様、お祝い太鼓を演奏いただきました日本太鼓クラブOBの皆様、そしてご出席いただきました皆様のご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

今後の山桜会90周年事業の成功と山桜会のますますの発展を祈念致しまして、90周年記念新年会の報告を終わらせていただきます。

山桜古典写真機同好會

茨木中14・高36 櫻野 起秀

我が山桜古典写真機同好会は、昨年(平成25年)の年の瀬頃から、コレクター的要素の強い会から少し前進して、撮影会の予行練習を開始致しました。とは言っても、クラシックカメラ好きの会員の皆さんですから、撮影より、カメラ談義に花が咲いてしまうという感じでした。当会代表の秋山陽彦さん(小59期・大中2期)小林太郎さん(小75期・大高18期)香山恭慶さん(小83期・大中高26期)は、ライカ、ローライ等のドイツが世界に冠たる時代のカメラを持参され、私のようなクラシックカメラについて、浅学非才な者等、理解しかねる状況でした。唯一救いであったのは馬場耕一郎さん(大中高37期)が今は無きミノルタのTC-1と言う、高級コンパクト機を持参されていた事で、ちなみに私はニコン党でF5の50周年記念限定モデルに28mmF1.4の大口径レンズを装着して、持参しました。私の機材を見た小林太郎さんからは、『北新地仕様ですか?』と小林節で言われました。

本格的に当会が、撮影会を開始したのは、寒風吹きすさぶ2月11日の倉敷からでした。この撮影会は二部構成でして、一部は撮影会、二部は撮影反省会と称して、居酒屋で瀬戸内の魚介類を堪能しながら、カメラ談義に花を咲かせると言う物でした。一部の撮影会に、当会のテクニカルライターである香山恭慶さんがお仕事の関係で欠席なされ、クラシックカメラについての博識ぶりに、いつも感嘆させられる私としては残念な思いが致しました。欠席される方がいる一方で、当会に新たに入会される方が来られました。後藤良雄さん(小61期・大中高4期)と後藤さんの同期の陣内紀夫さんです。



今回の撮影会は、モノクロ写真を撮るのがテーマで、倉敷の美観地区を撮影致しました。秋山陽彦さんはライカM6を、小林太郎さんは、今は無き、コニカミノルタへの哀悼を込めてヘキサ-RFを、後藤良雄さんは、ニコマートとデジタル一眼の最新機ニコンD200を、陣内紀夫さんはミノルタAF一眼とデジタル一眼のD70を持参されました。私は、二部の方に気を取られ過ぎて、機材を軽くするため今は無き、コンタックスT3を持参しました。

二部の撮影反省会では、山桜会会長の川原俊明さん(小71期・大中高14期)ご夫妻と前山桜会事務局の西田尚子さん(山桜会員)もご出席になり、楽しく会食出来ました。この撮影会の直前に、ニコンがフィルムカメラ事業を大縮小、コニカミノルタがカメラ・フィルム事業を廃業、ドイツのアグファ社が破産する等、我が山桜古典写真機同好会会員にとってショッキングなニュースが有りましたが、敢えて写真の原点で有るモノクロフィルムで写真を撮る事で当会の結束を固めようと頑張り、楽しい一日を過ごす事が出来た事を、ご報告致します。

当会は、写真とカメラを愛する山桜会員の皆様に、広く門戸を開けておりますので、お気軽にご参加ください。

平成17年度 第2回女性部会催し 家庭の中の風水 ～風水を利用して運気を上げよう!～

女性部会 鷺見 文子



女性部会の講演会を2月18日(土)3時から大手前中・高等学校の視聴覚教室で開催いたしました。講師は花谷幸比古先生で、「家庭の中の風水～風水を利用して運気を上げよう!～」と題して講演していただきました。

“運気をアップ”という興味のある演題に70名の皆様に参加。

まずは、風水とは何か…?という少し堅い話から始まりました。風水は易学ではなく、自分達の繁栄と子孫の発展のために、生氣ある場所を探す技術のことをいうそうです。生氣のある土地、生氣が充滿しない土地の見分け方や、欠けていたり張っていたりしている土地にはどんな気が流れているのか、また、部屋の間取りからどういうことが分かるのかなど具体的に説明していただきました。講演を聞いて改めて家や敷地を見直してみた方も多かったのではないのでしょうか。

また、どうすれば子供の成績が上がるのかという質問には、子供部屋の位置や机の向きなどを教えていただき、もっと早く知っていれば…などの声も上がりました。

この度の講演で風水学の概要がよく理解できると同時に運気を上げるいい

機会を得ることができました。きっと皆様のお役に立ち、喜んでいただけたことと思います。

講演会終了後はドーンセンター内レストラン「ゆいまー」で先生を囲んでお食事をを行い、40名の皆様にご参加いただきました。先生のもとには個々に質問される方が後を絶たずゆっくりお食事をしていただけない状態でしたが、皆さんの質問に気さくに答えていただき、和やかに会を終えることができました。

今年は山桜会90周年の行事が多数行われますので、次回の女性部会催しは来年2月に行う予定です。また、皆様に喜んでいただける楽しい催しを企画したいと思いますので、その折には是非ご参加ください。



山桜会90周年記念

チャリティー ゴルフコンペ

開催ゴルフ場
三田カントリー27

ゴルフ部会 巽 英一

山桜会の皆さまこんにちは。

山桜会・ゴルフ部会は毎回ゴルフというスポーツを通してオール追手門の仲間達と世代を越えた交流を目的に行なってきました。

今回は山桜会90周年記念・チャリティー・ゴルフコンペのご案内を致します。これまで、開催収益金を各種NGO団体にご寄付いただきましたが、今回も同様な趣旨で開催させていただきます。

なお、今回も山桜会々員はもちろん、学院役員・各級の先生方やPTAの方々にもご参加を頂く予定です。お一人での参加も大歓迎、また各学年同窓会コンペと併せたダブルコンペとしてもご利用ください。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。



開催日時	平成18年 9月17日(日) 8:30 スタート(24組 エントリー済)
集合時間	8時00分より各スタート時間の30分前(時間厳守)
開催場所	三田カントリー27 兵庫県三田市上本庄1215 TEL 079-568-3311 参加者には後日、集合時間・組合せ表・地図等を郵送致します。
参加費	¥8,000円程度(チャリティー代¥1000含む、尚プレーフィは、各自ご清算下さい)
競技方法	18ホールストロークプレー、山桜会ベリア方式・他ローカルルールに準ずる。個人戦(入賞は当日発表します。) 女性枠入賞の特典も多数用意しております。
申込方法	追手門学院 校友会・山桜会事務局まで (7月末日締切り、ただし定員になりしだい締め切らせていただきます。) TEL 06-6940-3481 FAX06-6940-3482 ご希望の組合せがあれば、お申し出ください。
備考	今回はプレー費が山桜会特別料金にてプレーができます。

参加申込み

《記入例》

追手門学院校友会 山桜会事務局行

FAX番号: 06-6940-3482

mailアドレス: office@yamazakurakai.com

No	名 前	性別	期	生年月日	郵便番号	住 所	電話番号	HC
01	山桜 太郎	男	小80大中23茨高23	S31/08/25	541-0041	大阪市中央区北浜2-3-1	06-6222-0001	30

No	名 前	性別	期	生年月日	郵便番号	住 所	電話番号	HC
01								
02								
03								
04								

◆参加各位には後日、山桜会事務局より組合せ等の資料を郵送致しますので、郵送先希望住所を確実にご記入ください。(詳細に記入願います)

◆取りまとめリーダーの方はナンバー数字に○を付けてください。◆本申込書に書ききれない場合は各自でコピー願います。◆オフィシャル・ハンディキャップ取得の方はHC欄にハンディーをご記入してください。

東京山桜会

校外教授とグルメの会

大手前中・高19期 佐伯 文子



平成17年10月22日、東京山桜会会員28名も集まり上野、池之端の森鷗外居住の跡の『水月ホテル鷗外荘』にて昼食をとり荒川良雄(中高4期)先輩から森鷗外の略歴や処女作『舞姫』ができるまでの概略や旧岩崎邸のことなど講義をきき、おちついたたずまいの鷗外荘のお

料理に舌鼓みを打ちつつ和気あいあいと話しはるみ秋の風情を全体で楽しみました。鷗外荘へ入る所、『森鷗外居住の跡』とこげ茶色の細い柱に書いてあるのにドキッとさせられました。追手門学院の中等部修学旅行の東北地方へ行く途中東京に一泊したのが鷗外荘のうしろのホテルで2階からこの鷗外荘のこげ茶色の柱と庭石と軒が見えてたのを覚えています。中学2年の時で39年ぶりです。ここで森鷗外が処女作の『舞姫』を書いてドイツ留学して恋人エリスも日本へ来て親から反対され帰っていったのかなど想像し、即日本人と結婚という話もしきき、また再婚など森鷗外の人生を荒川先輩の資料をみながら皆んなでふりかえりました。私の頭の上の額には、『遺言状』とかいたのがかざられていました。他に書や文豪作家の写真などがざらられていました。後の人達もがめないようされたのか『額』に入っていました。そのあと歩いて『旧岩崎邸』を見学しました。

ちょうどクラシックミニコンサートをきくことができ100年の時間旅行を建物の中で楽しみました。旧岩崎邸は、世界の住宅史においても希有の建築とされており、洋館と和館、撞球室、庭園がバランスよくとけこみあっています。洋館は、ジョイサア・コンドルの設計でジャコビアン様式を基調にしルネッサ



ンス・イスラム風などの複数の様式を折衷しながらも整然とした調和を保って2階の庭園に面した客室には金唐紙の壁紙が用いられ豪華な室内装飾が施されています。南に面しているベラン



ダには大規模な2層のイスラム風デザインのタイルが敷き詰められ、そこから庭をながめると『芝庭』がホッと心を安めてくれます。モッコクの大木も安けてくれます。奥の庭の方には馬場もあ

ったそうです。1階東側の客室天井はシルクのペルシア刺繍の布張りになっていて地階は台所で、撞球室と洋館は地下道でつながっているそうです。1階列柱はトスカナ式、2階列柱はイオニア式装飾で、米国ペンシルヴァニアのカントリーハウスのイメージも採り入れられたり、各室構成はヴィクトリア朝のカントリーハウスを踏襲しているそうです。玄関上部が角ドームの塔屋となり、ヨーロッパのお城を連想します。和館は大河喜十郎の施行と伝えられ、書院造りの広間には明治の日本画家橋本雅邦作と言われる白い富士山の障壁画が描かれています。縁側には大きい手水鉢や大きい庭石、遠くに大きい灯籠や築山があり、色々な角度から楽しませてくれました。洋館の近くの堀には、三菱の元のマーク菱餅を小中大を重ねたような紋がドカッと浮き上がったのが目に入りました。西山恵子(小65期)先輩いわく、『大きい会社を維持するには、ケチでないと維持できないのよ。ケチでないとながく続いていかのなのよ。』『ほんまにな。』『まったくやな。』うなづきながら明治29年完成の建物をあとにしながら私達は池之端文化会館で100年の時間旅行をおえケーキとコーヒー、紅茶を飲み一休みし、各自たっぷり味わって上野から家路につきました。充実した一日でした。

第8回校外教授のお知らせ

今年は11月4日(土)菊花満開時、新宿小笠原伯爵邸見学・会食を予定しております。大阪の会員の方も参加されんことを期待します。

日時 平成18年11月4日(土) 11:30~17:00

会場 新宿河田町 小笠原伯爵邸見学・会食

●新宿御苑見学(菊花展鑑賞) ●講話 荒川良雄氏

会費 10,000円 **申込先** 東京山桜会事務局

TEL/FAX 044-877-2138 萩原正民

京橋駅前 (JR・京阪・地下鉄)
(大手前中高37期)

歯列矯正専門
子供～大人の方の歯並び相談

kurioka
ORTHODONTIC PRACTICE

更正医療・育成医療指定機関／顎口腔機能診断施設

くりおか矯正歯科クリニック

tel.06・6358・4182(ヨイハニ)

院長 栗岡宏行 ●日本矯正歯科学会会員
●アメリカ矯正歯科学会国際会員

〈診療時間〉

火曜～土曜 10:30～19:30

〈休診日〉

日曜・月曜・祝日

大阪市都島区東野田町2-9-7 K2ビル3F

<http://www.kurioka.com>



私たちは、食を通じて社会に貢献します

サトレストランシステムズ 株式会社

代表取締役兼執行役員社長 重里 欣孝
(大高24期)

〒590-0001 大阪府堺市堺区遠里小野町一丁目3番111号
Tel.072-227-5901
www.sato-restaurant-systems.co.jp

ISO9001取得／ISO14001取得／ビジネスモデル特許取得

「ぐつすりコーナー」大好評!!

¥4,980~ 税込 **朝食無料**

スーパーホテル

現在全国58店舗

レディースルーム・フロアー
(女性限定のくつろぎ空間)
もご用意しております。

ご予約は

<http://www.superhotel.co.jp/>

携帯 <http://www.superhotel.co.jp/>

店舗に関するお問い合わせ

TEL 06-4803-9000



校友会山桜会90周年
追手門学院創立120周年

記念講演会

「活力ある日本経済の実現に向けて」

平成18年3月18日

講師 日本銀行総裁 福井 俊彦氏

山桜会90周年記念事業の一環として、また追手門学院創立120周年を記念して日本銀行総裁 福井俊彦氏をおむかえし、講演会を開催しました。小雨の降る寒い土曜日にも拘わらず、小学校110記念ホールいっぱい700名近い学校関係者が参加されました。

時あたかも日銀の量的緩和の解除が行われた直後にあたり、まさに日本経済が大きく転換する局面に重なりました。総裁の講演も当然それに重点がおかれ、齒に衣を着せず量的緩和解除の経緯、今後日本経済が進むべき方向性などむづかしい当面の経済問題をわかりやすく話して頂きました。人柄を反映して親しみ易い中にも言うべきことは言う姿勢を貫かれ50分の予定は90分にも及び、更に何人かの鋭い質問にも丁寧に答えられ、参加された皆様が、総裁ご本人から日本経済の核心に迫るお話を聞くことが出来、満足されたことと思っております。また、とくにお願いして色紙の揮毫や植樹まで快くお引き受け下さいました。



▲福井総裁と秋山副会長

何よりも、主催者が願っており「総裁にも、参加者の皆様にも気持ち良く来て頂き、来てよかったと心暖かくお帰り頂く」ことが出来たのではないかと感じております。また、何一つトラブルもなく無事講演会を終わらせて頂きました事、参加して下さいました皆様と、長時間労をいとわず協力して頂いた山桜会スタッフや大学生の方々、事務局の皆様、それに会場のお世話を頂いた小学校のご尽力の賜物とここに改めて御礼申し上げます。

山桜会90周年記念事業委員会 委員長 秋山陽彦



▲花木を植樹されました。



賃貸マンション管理 資産活用

タイセイ

顧問
辻田 四郎
小67期 中10期

株式会社タイセイシュアサービス

〒534-0021 大阪市都島区都島本通1丁目4-20
電話:大代表06-6921-8111 / 総務部06-6927-2234
<http://www.taisei-sure.co.jp/>

何でもあります 高17期卒 嶋野 義夫

ダントツの3000坪

●生活家具から調度家具まで●

家具のやおもく

日本一の安さ! ご婚礼家具 200組 票
日本一!! BED 300台 票
3年連続日本一! 学習机 200台 票

カリモク マルコ コスガ 浜本工芸 シモンズベッド フランスベッド

ご愛読者・関係者及びご紹介のお方
一流ブランド オール3割引
輸入家具も特別値引き

大阪府八尾市光南町2丁目41 外 池田・寺岡・辻野 商
フリーダイヤル 0120(555)703

元偕行社附属小学校 四十七期
元山桜会会長

吉本 晴彦

株式会社 大阪マルビル顧問

創立120周年記念事業

校舎建設計画



小学校建設委員長 小学校教諭 森 義和



▲新校舎完成予想図

本校120周年の記念事業の一環として、「西館専科棟」を建設します。新校舎は、低学年児童の学習面や動線に配慮したゆとりのある普通教室、芸術・創造性を豊かに育む音楽・図工・習字・家庭科の各専科教室、さらに500人収容のスカイルームと給食調理室からできています。見晴らしのよい6階のスカイルームで、大阪城やビジネスパークや生駒山を眺めながら美味しく給食をいただきます。

どの教室も現教室よりゆとりを持った広さで、新しい教育にも対応できます。さらに、これらの西館校舎建設とともに、東館4階に理科室を増設します。

建設は、教育思想を具現化したものです。出来上がった建物を使って次の時代の教育が可能になるのです。これまで約30回ほど小学校建設委員会を重ねてきました。練り上げてきた案を提示して、昨年の夏にコンペを行いました。指定した3社の提案図書はいずれも充実した内容でしたが、厳正に審議して建設会社を決定しました。その後、建設委員会の小委員会で細かいところを練り上げて、設計に反映させています。現在、建設会社と基本設計の最終の詰めを行っています。次いで、実施設計を行い2008年の完成を目指していきます。

小学校では、児童に最高の教育環境のもと追手門教育を受けさせるべく校舎建設を計画的に進めてきました。計画は、90周年記念事業として東館特別教室棟、100周年記念事業として北館普通教室棟、110周年記念として本館管理棟を建設しました。今回の120周年記念事業としての西館専科棟建設が終了すると、小学校マスタープランの完成となります。

建設にあたり、学習・運動・行事など支障のないように計画を進めてまいります。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

校舎の教室予定



増設



御 礼 大手前中高等学校52期生「二十歳の会」から山桜会に、10,510円ご寄付頂きました。ありがとうございました。

NEC NEC 販売特約店

近畿オーエーシステム株式会社

本社 大阪支店 〒550-0011 大阪市西区阿波座1-4-4 野村不動産ビル5F TEL(06)6543-3741(代表)
奈良支店 〒632-0086 奈良県天理市庵治町295-2 TEL(0743)64-2021(代表)

NTT DoCoMo

ドコモショップ新町店 (06)6539-2268
ドコモショップ鶴橋店 (06)6775-8400
ドコモショップ西大路店 (0742)30-3011
ドコモショップ大和高田店 (0745)52-8868
ドコモショップ天理店 (0743)64-2040
ドコモショップ桜井店 (0744)46-4168
ドコモショップサテライト機原店 (0745)85-1211

http://www.yukita.co.jp/

YUKITA

人と情報・エネルギーの国際交流をサポートします。

行田電線株式会社

本社/大阪市城東区古市1丁目2番11号
TEL(06)6933-5811 FAX(06)6934-7335
支店/東京 海外/香港・上海・外高橋(上海)・シンガポール
海外工場/上海・滁州(安徽省)・深圳(広東省)

整形外科 胃腸科 外科

医療法人 仁友会

桜之宮クリニック

院長 胃腸科 秋山 陽彦 (小59、中2期)
副院長 整形外科 石川 正士

536-0008 大阪市城東区関目3-2-22
TEL 06-6939-2851 京阪電車 関目駅 南200m
FAX 06-6931-2359

中高等学校の近況報告

茨木

教頭 相馬 すみひこ



はじめに>>

山桜会設立90周年おめでとうございます。昨年は、高2修学旅行の件で山桜会会員の皆様には、ご心配をおかけし申し訳ございませんでした。お詫びとともに、数々のお励ましに対し厚くお礼申し上げます。

さて、昨年度末に土井邦孝前校長が退任され、4月からは岡本平新校長をお迎えし、新しい体制で、更なる学校の発展に向けて取り組みを進めております。

教育活動>>

茨木の中高は皆様もご存じのように、コース制を軸とした教育改革に取り組んで7年目を迎え、着実に実績を積んでまいりました。本年も国公立44名、関関同立216名の合格を果し、とりわけ大阪市立大学3名、大阪府立大学4名、京都教育大学2名など近畿圏の国公立大学へ22名が合格しています。来年は、中学にコース制を導入してからの第1期生が卒業しますが、模試の成績などでは京大・阪大などにチャレンジできる判定の生徒が数名でています。

総合文理コースで生徒の積極性を引き出したいという意図から実施した本校独自の「特別講座」も今年で三年目となり、進学実績の支えになっていると考えています。中学校ではコースの特性をさらに明確にするための、新たなコース別宿泊行事を実施するなどの取り組みを進めています。

学校生活>>

「基本的な生活習慣の確立」を重要な指導目標として、生徒自身が自らの行動とその結果に自信と誇りを持てるように、日々の生徒指導にあたっています。数年来の登校指導も一定の成果がみられましたので、今年は、とくに下校指導に力を入れていくつもりです。

クラブ活動では、コーチ制の導入により、各クラブが優秀な成績を残せるようになりました。たとえば、今井佳奈さんが国体馬術の部で3位入賞、空手道部が女子団体で近畿大会出場、演劇部が大阪府大会で優秀賞を獲得するなどの実績をあげました。また、中学校については、従来なかったテニスサークルとパソコンサークルのサークル活動を認め、生徒のクラブ活動に対する意欲の高まりに応じています。

新校舎建設>>

120周年記念事業の一環として、高校棟の建設が決定されました。現在の茨木キャンパスに建設し、延べ床面積7000m²、予算15億円、2008年8月竣工の予定で、現在は基本構想を固める作業に着手している状況です。

さいごに>>

茨木中高の近況は上述の通りですが、大学のキャンパス整備計画の進行に伴い、茨木キャンパスは大きく変化しています。卒業生をはじめ山桜会の会員の皆様には、機会があればぜひ茨木キャンパスにお越しいただき、ご自身の目でお確かめいただきたいと存じます。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

大手前

教頭 南 登章生



近畿統一の中学入試元年。昨年と比べ、大阪の6年生は1615名減。奈良・和歌山のお試し受験がなくなり統一入試の余波は、大阪に順風の入試で、高倍率、高レベル、手続き率の良い入試となりました。昨年度265名の志願者に対し、今年は358名の志願者と大幅に増加しました。この現象は、9月の駿々堂模試にも現れ、志願者動向の伸び率は、大阪私学の常に上位にあり、10月のプレテスト受験者や成績アドバイス会への参加も昨年度比50%増で、説明会などへの増員も堅調となった。この志願者増は、本校の面倒見の良さで温かく生徒を伸ばしているという評価によるもので、模試データの伸び率や各学年の手厚い指導が認知され、上本町周辺の手塾からも志願者が倍増しました。今、伸ばす名門・伝統校として、ある大手塾からも「名門の復活は早い」の声もあります。

本校の本年度の入試では、A日程でも志願者増加、特にB・C日程で難化し、特進の合格ラインは65%程度にまで上昇、高倍率でレベルアップの入試となりました。

2月25日からは、新入生に2度来校頂き、早々プレスクールが始まり、スタートダッシュ。4月初旬には琵琶湖にて2泊3日のプレキャンプで追手門イズムの鍛錬をすませ、4月7日には入学式を終え、意欲溢れる中学60期165名、高校57期152名の新入生を迎えました。

すでにお気づきの通り、皆様の温かなご声援とご厚志により、お陰様でいよいよ新校舎建設が進み、玄関には3階建の仮設中学校舎・中庭には2階建の特別教室の設営。5月初旬には「校舎惜別の集い」、5月から懐かしの体育館・北館・西館の解体が始まります。

大学入試でも関関同立78名・産近甲龍46名合格と好調。日々の生徒達の頑張りから先生方にも喜びの成果が手応えとなりつつあります。

今、在校生へのより一層の熱い指導を実践し、学力を伸ばすことを第一義の責務として、更に引き締めて全教員が努力を誓います。

何卒、皆様の益々のご理解とご支援をお願い申し上げます。



弁護士法人
川原総合法律事務所
Kawahara Law Office

弁護士 川原俊明
(小71・中高14期)

弁護士 中村信仁
弁護士 尾熊弘之
弁護士 稲永泰士
弁護士 中橋 敦
弁護士 杉本智則
弁護士 箸尾朋典

〒530-0047 大阪市北区西天満2丁目10番2号 幸田ビル8階
TEL : 06-6365-1065 (代表) FAX: 06-6365-7265
IP電話: 050-5520-4503
E-mail: kawahara@e-bengo.com
http://www.e-bengo.com

快適で安全な住まい
社会づくりを目指して

建物総合管理の**双葉グループ**は
プロ集団として皆様と共に前進します。

- 清掃業務・設備管理等ビルメンテナンス
- 常駐警備・機械警備業務
- 人材派遣

株式会社 双葉化学商会

電話 06(6531)6571
FAX 06(6531)6605

ステンレス加工のパイオニア

株式会社 精和工業所

代表取締役社長 山下 清一

兵庫県伊丹市北本町3丁目105番地
TEL: 072-782-0281 (代表)
http://www.seiwa-ic.co.jp

二期会 ～開催のご報告～

「二期会」とは、小59期・中2期・高2期が一つになったものです。

17年11月19日(土)午後6時開宴で、ホテルヒルトン大阪にて開催されました。前回(16年度分が少し遅れて、2月26日開催)から、この日までに亡くなった人2名。(7月20日、西村峰雄さん・7月、宮池忠さん)黙祷。



卒業以来初めて参加の、川島清照氏は、東京からの出席、初めてではないけれど、超久しぶりなので、顔覚えてるかな? と言いながら参加の、佐野晴彦氏。女性3名を交えて、計30名、屈託のない、楽しい一時を過ごしました。殆どが70歳なので、量より質を、のお料理が、とても美味しくて、これは幹事の腕と、ホテル側のサービスに感謝。

恩師、早川茂先生が存命の頃は、「二期会」の他に、「早川会」がありました。(高校卒業者を中心に)早川先生が逝かれて4年。「早川会」が開催されなくなって、小中高追手門、中高追手門卒の人は、他に同窓会が無いので、少々寂しく思っています。人恋しくなるのは、年齢のせいかもしれません。同窓会に1回抜けると、顔ぶれが変わるかも、と言う不安も少々有り、毎年開催しています。毎回参加というわけにはいかないでしょうけれど、出来るだけ参加が望ましいです。

多喜 晴代

今回参加の皆様(敬称略)

秋山陽彦／岩田啓茲／梅岡宏史／金城平八郎／川島清照／木村行子(武山)
／黒山孝司／佐野晴彦／沢谷俊／下田良雄／田上欽也／多喜晴代(三田)
地引啓／辻田悦三／辻村賢造／東野裕一／長岡英人／中島英治／中谷庄八
／中村健／二ノ宮瑛夫／林正雄／藤本稔／堀井諭／水上直治／宮崎隆治／
村井輝造／山上啓治／山本知子(西村)／吉川博治／ 以上

大手前中高25期同窓会

大手前中・高等学校25期生同窓会を開催しました。

4月15日(土)あいにくの雨模様でしたが、16年振りの開催ということもあってか、およそ80名の出席者が、7人の恩師を囲んで、帝国ホテル大阪で楽しいひと時を過ごしました。



17時からの同窓会に先立ち、15時から南教頭先生のご厚意により近々取り壊される懐かしい校舎の見学会も致しました。

同窓会は惜しくも亡くなった6名の同窓生に黙祷を捧げてから代表幹事の吉村慎吾君の挨拶で始まり、恩師の先生方(佐伯 勝先生・山本治之先生・清水智子先生・竹内孝治先生・池田公昭先生・南登章生教頭先生・亀井哲夫校長先生)おひとりずつより、近況報告も兼ねてご挨拶を頂きました。先生方はお元気で、昔のまま(?)でした。

予定の3時間もあっという間に過ぎ、最後は校歌と記念写真撮影でお開きとなりました。2次会は隣のOAPタワー最上階から夜景を楽しみながら、予定の40名を大きく上回って65名ほどの参加があり、大変賑やかに、



和やかに会話が弾み、すぐに時間が過ぎました。まだまだ続く3次会は南のディスコ、ポイントアフターまで40名がなだれ込み深夜まで同窓会は続きました。

同窓会幹事
寶来 順子

小学校105期 学年同窓会



去る3月25日に、『小学校105期 第1回 学年同窓会』を1次会は小学校で、2次会を大阪城を望むレストランで開催致しました。

出席者78名という学年のほぼ半分のみなさんと、6

年時担当して下さった7人全員の先生方が参加して下さいました。

3次会では、嬉しい悲鳴とばかりに50名も参加して頂き、会場が大混雑。(みなさん、少し窮屈な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。)そして、4次会でも、30名近く…結局、朝まで20名近くの方が残って下さいました。

かれこれ成人の日同窓会から約4年が経ち、就職している人も半分近くになり、みなさん大人になっていました。卒業後12年ぶりに再会した方も多く、

とても懐かしかったです。しかし、みなさん大人になって、しっかりはしていましたが、見た目はかわいく&かっこ良くなっているとはいえ、正直あまり変わっていないです(笑)

今回、小学校の西館が建て替えられると聞き、昨年末から大急ぎで準備した会ではありましたが、大反響で、幹事共々喜んでおります。出席下さった先生方、遠くヨーロッパや、北海道、東京や中国地方からも、駆けつけて下さったみなさん、本当にありがとうございました。

残念ながら、住所不明の方が3名おられ、同窓会の連絡が出来ませんでした。が、お心当たりのある方は、山桜会に住所変更のご連絡をお願いします。そうすれば、次からは連絡が行きますよ。

これからも、何年か置きに学年同窓会をしていこうと思います。これからも、どんどん交流しましょうね。

第1回 105期学年同窓会 幹事一同 東條 さおり

参加者募る!!

佐藤良和先生傘寿のお祝い



ひな祭りもすみ春のよそおいを感じ始めた3月19日に、ホテルモントレ大阪で演劇部・放送部のOB11名が『佐藤先生を囲んで』旧交を温めました。ちっともお変わりのない佐藤先生の

お姿に、一同は嬉しく感慨ひとしおで楽しい時間を過ごしました。

その時に、以前からOB達の間で提案されていた『佐藤先生の傘寿のお祝い』について話し合い、佐藤先生のお誕生日である10月15日に開催しようという事になりました。

そこで、広く会員の皆さまにご案内をさせて頂きたく会報に掲載させて頂きました。演劇部・放送部関係にとどまらず、少しでもたくさんの方々にご

参加頂きたいと願っています。老若男女を問いません…佐藤先生にお世話になった方、懐かしくお会いしたい方、学生の頃ゲンコをくらってその「お返し」(笑)をしたい方…どんな方でも結構です。

この会の趣旨にご賛同頂ける方は奮ってご参加下さい。

開催日は2006年10月15日(日)P.M 1:00～3:00 会費は1万円の予定です。会場等は参加人数によって設定し、参加ご希望の皆様には追って正式な案内をご通知させて頂きます。

会場設定等の都合上、7月31日までに参加の連絡をお願い致します。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

連絡先…e-mail : aibi@muse.ocn.ne.jp

090-9988-0590 (23期石井) / 090-1963-6234 (23期加納)

OB会 一同代表 21期 後藤田 真造 / 23期 矢島 睦聖

茨木キャンパス便り

創立120周年記念事業総合募金の御礼とお願い

平素は追手門学院、創立120周年記念事業に対して格別のご厚情にあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、創立120周年記念事業総合募金につきましては、2005年10月から実施しておよそ7ヶ月が経過しようとしております。この7ヶ月間の募金につきましては、山桜会会員の皆様方を始めとし各位様から多くのご寄付をいただいております。5月1日現在で個人・団体・企業などから総額2億6千万円の募金が集まりました。ここに皆様方のご厚情に対して深く感謝の意を表します。

以上のように、多くの皆様方からも総合募金に対してご寄付をいただいておりますが、残念ながら現在までの寄付総額は上記のとおり募金目標額の12億円には程遠い状況であります。

つきましては、厳しい経済状況の中誠に恐縮ではございますが、引続き山桜会会員の皆様方の強力なお力添えを頂きまして、ぜひとも追手門学院の教育施設の整備や教育内容の一層の充実を進めて参る所存でございます。何卒、この総合募金にご協力頂きますよう切にお願い申し上げます。

また、募金要項や振込用紙を紛失された場合には、創立120周年記念事業事務局までお問い合わせ頂きますと、募金要項一式を郵送させていただきますので宜しくお願い申し上げます。

創立120周年記念グッズ・記念切手シート好評発売中

学院創立120周年を記念して、120周年ロゴマークとイメージキャラクターを取り入れた記念グッズ(9種類)と記念切手シート(通信販売可、120周年のホームページ参照)を下表のとおり発売いたしております。これらはローソン大学店及び各学校給品部でご購入いただけます。(P.24参照)

創立120周年記念事業(2006年度)行事予定一覧表

行 事	月 日	場 所
天神祭「奉拝船」出船	7月25日(火)	大川(乗船数80人)
「おうもん教育セミナー」	8月～9月	毎日文化センター(受講人数70人)
東田氏とデュック更家氏 ミニコンサートと講演会	10月6日(金)	茨木市ユーアイホール(集客数1,000人)
歴史写真パネル展(大学編)	10月29日(日)	大学食堂ホール(延400人見込)
山桜会90周年記念パネルディスカッション 「追手門の将来を考える(仮称)」(協賛)	10月29日(日)	リーガロイヤルホテル
湯浅卓雄氏大阪フィルハーモニー交響楽団 学院コンサート	11月8日(水)	ザ・シンフォニーホール(集客数1,780人)

全キャンパスリニューアル計画推進中

大学における中央棟計画は、IT設備を完備した600人収容の大教室を1層、400人収容の中教室3室を1層配置した6号館、及び研究室、事務部署などが入る中央棟の2棟構成とするもので、大学キャンパスの中でもシンボルとなる斬新さを備え、かつ機能的に利用できるように設計された中央棟の建設に着手いたしております。中・高は高校棟(教室・選択教室棟)の建替えが予定されており、現在設計内容を検討している最中です。大手前中・高は教室棟5層(北館・西館・体育館)の建設に動き出しており、仮校舎がつくられている現況です。また、大手前中・高の高層階(6階部分)には、学院共通のフロアーが確保されており、追手門学院が将来的に発展するための戦略的な拠点、及びオール追手門で利用して頂ける拠点となる高度利用を検討いたしております。小学校では、地下1階、地上6階の教室棟7層(普通教室、各専科教室、スカイルーム、給食調理室)からなる西館の設計図が完成し、建設直前までできております。また、幼稚園におきましては、木目細かな配慮を施した素晴らしい園舎が既に一昨年に竣工いたしております。申すまでもなく、追手門学院に望まれるものは、これらの教育施設の整備と同時に教育内容の更なる充実と向上を目指し、教育改革を続行して行くことで、お蔭様でこれまでのところ関係の計画は順調に推移いたしております。



▲大学中央棟・6号館



▲大手前中・高



▲小学校



▲追手門幼稚園

大学校友会

大学校友会 会長 平野 昌雄



▲建築中大学中央棟

追手門学院校友会山桜会のみなさま、山桜会創立90周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて大学校友会も追手門学院創立120周年、追手門学院大学創立40周年を迎えるにあたり大学校内に校友会館の建設を計画しており、今年度中に建設準備にとりかかる予定であります。大学校友会の会員も3万5千人を超えようとしている現在、さらなる組織力が強化、事務処理の合理化、支部活動の強化、現役学生への支援、ホームページの充実等を今後の方針として考えておりますが従来の校友会活動の路線を踏襲しながら開かれた校友会として改革に取り組まなければなりません。

母校も1964年創立当時は2学部(経済学部、文学部)でスタートいたしましたが、今や2学部に加え経営学部、心理学部、社会学部、さらに2007年には文学部が国際教養学部となります。研究所やベンチャービジネス研究所の設置等、時代の変化に合った大学教育へと次々と計画されています。キャンパス整備計画においては地域支援心理研究センターの建設、図書館の改修、中央棟の建設、グラウンドの整備等、様々な変化をとげております。

大学校友会もオール追手門として学院の発展の為、又母校の発展の為微力ではありますが側面より支援、協力を考えております。

最後になりますが、校友会山桜会のみなさまのさらなるご活躍と山桜会の益々のご発展を願いつつ同じ追手門ファミリーとして母校の発展の為に寄与できる事を願っています。

会員だより

小学校76期 原文人



私は追手門学院小学部の卒業生であることをいつも誇りにしている。もともと弱虫だった私は、小学部5年生のときから教わった理科の佐川博先生によってその後の生涯を変えるくらいの影響を受けた。この先生は、私が持っていた疑問について何でも丁寧に教えてくださった。そしていつも何か聞くと同時に関連した調べ物の宿題が出て、私は何よりもこの宿題をするのが好きだった。するとまた疑問が出てきて、未知の世界はどんどん広がっていった。その後理科から始まって、物理、化学、天文学、地球学とひろがり同時に地図が好きになり、地理、歴史、考古学とどまるところを知らぬ好奇心が広がった。そしてもっと大切なことは、佐川先生から、好きなことは限りなく追求し、正しいと思ったことは曲げてはいけないということを教わった。中学は追手門学院に進むものとおもっていたが、頭を丸坊主にしなければならないので断念した。そして大阪で唯一校だけ、長髪を許していた市立船場中学に入った。ところが運悪く、同時期に赴任した安田新校長が、船場も今年からは丸刈りにすると宣言した。ここからは、学校との抵抗の始まりだった。先生からは不良呼ばわりされるし、長髪のままがんばろうと誓ったはずの仲間も次々と丸刈りにしていく。2学期になると、1年では唯一人になってしまった。運良ドイツからの赴任を終えて帰ってきた商社マンの子供が編入してきて彼は当然のことながら長髪なので、絶対に抵抗しようと誘っては見たものの、先生方の強い説得にあったのか数週間うちに丸刈りとなった。私の長髪はますます目立ち、先生からは、「植木鉢」などというひどいニックネームをつけられた。いじめているつもりなのかもしれないが、こちらはレジスタンスのつもりでがんばっているのだとこゝない。親に聞いても、私が説明するとよくわかってくれて、決して先生の言うとおりにしなさいとは言わない。之が一番ありがたかった。その後長髪が不良ならば、それで結構。その代わり勉強は一番をとってやると決意。中2のときだったと思うが、父が欧州から帰ったので、「どこから帰ってきたの?」と聞くと「スオミからだ。」という。地理の時間にそんな国は聞いたことがない。そこで「それは、どこにあるのですか?」と父に聞くと「スオミとはフィンランドのことだよ。」と答えが返ってきた。「なぜスオミってよぶの?」ときくと、「フィンランドは、英語の呼び方だ。地元の人々は、スオミって自分の国のことを呼んでいるのだよ。お前だって、日本のことをジャパンとはよばず、にっぽんと呼ぶだろう。」と返事した。この一言が、私の疑問を沸かした。学校で習っているのはひょっとしたら其の国の人が自国を呼んでいる名前と異なる名称を習っているのかもしれない。

整理してみると、イギリス、ドイツなどは、日本語による国名だし、スウェーデン、ノルウェイなど多くは英語の国名だ。調べていくとオーストリアなどは、現地の人々は、エスタライヒと呼んでるし、ポーランドだってボルスカだ。全部調べて、地理の試験に現地風の国名を書いてみた。先生は、事情を聞かれたが、高校入試のときは、絶対に現地風の国名を書くなどと言いながら高く評価してくれた。長髪の私は、生徒手帳にある校則の中で、正しいと思えないものは片端から破った。其の姿勢が本物のワルに受けたのかずいぶん多くの友人が私の周囲にたむろした。勉強だけではいかん。文武両道だと感じて後に空手を始めるきっかけとなった。先生たちの見る目も3年になるとすっかり代わった。自分流を誰も許すようになった。学生時代は、勉強もしたがそれ以上に遊んだ。ほんとに楽しかった。

若い間にできるだけおいたらよいと思うことは、失敗の経験だ。学生時代、そして20代、30代といった若い間は、思いっきり挑戦して、燃焼してそれで失敗するのならそれでよし。考えぬいて、そのときできる限りの準備をして、そして思いっきりやってその結果失敗したとすれば、その結果学ぶことは大きい。失敗を経験するのとしらないのではその後の人生のおもしろさは大きく異なる。人間の将来は計算して作れるものではない。いくら賢く考えて最短距離で人生を計画し、学校を選び、資格を取り、職業を選んでも、生きていて本当によかったと思えるような人生にならないものだ。学生時代に考えることは、たいしたことではないかもしれないし、本当にしたいことが見つけれずにあがいているのが学生とも言える。それでもわずかに見つけたきっかけを迷わず突き進むのが若さであり、そこから始めた経験が、視野を広め、それが元になって考えさせられ、さらに行動し前へ進んでいくものだ。迷っていたら行動せよ。そうすれば道は開ける。

もし、何をしたいのかわからないのなら、学生のうちに世界の発展途上国の中からアフリカ、

アジア、南アメリカのうち合わせて10カ国くらいを選び一年かけて旅に出ることを勧める。私は学生時代、途上国で考古学研究をめざした経験があるが、自分が安全に生きていくためにはさまざまな工夫をした。日本にいる時と同じ感覚でいると、伝染病にもかかるだろうし、事故にも会ったり、強盗や事件にも遭遇する。自分で自分を守るために、世界の人々はどうしているかを否が応でも体得することができる。それから貧乏という言葉も、不潔という言葉も、文字で学ぶのではなく肌で感じ、何がおきて冷静にそのときの判断ができるようになっていくことを経験できる。その結果、ものごとを受け入れる許容量が広がり、少々のことでは、切れたり、ひどく沈み込んだりしない人間性の幅が出来上がってくる。途上国の経験ほど失敗から学ばせてくれるところことはない。人間の一生は本当に何が待っているのかわからない。人の一生の節目で、妥協した人間にはそれだけの人生が待っている。その結果、一見地位肩書きを手に入れて羨ましうに見える大人たちが本当に幸福でない場合も多いし、無名ながらも豊かな人生を送る人も多い。人の将来なんて誰もわからない。ただし、生きる姿勢は持っていたほうが、楽しく豊かな人生を送ることができる。さあ、若いうちに失敗の経験をつんで、決断力を身につけ思い切り人生を楽しもう。

もう日本を離れて30年になる。お金もちになったら幸せになれると人々を信じ込ませるところに、アメリカンドリーム流の幸福の定義の問題点がある。私は職業柄、アメリカで、いくつもの公開企業を生み出し、その創業者、従業員を最低でも数百人を億万長者にしてきたが、百億円以上のお金を作った人たちが本当に幸せになった人はほとんどないという事実を知っておくほうがよい。お金は、多くの場合人を変える。お金がないときには、お金があれば、これも買える、あれもできると夢は膨らむが、お金持ちになってみると、モノでは自分は満たされないことに気づく。シリコンバレーでもベンチャーを当てて急にお金持ちになった人が、ほしかった欧州車を何台も買い、ブルのついた大きな家を買う。中には宮殿のように大きな家を買うものもあるが、家などは、ある程度の規模より大きいとかって居心地が悪い。おいしいものもたまに食べるから、楽しいこともたまにできるからうれしく特別なのであり、特別なことが日常になると人間は感動を忘れてしまう。

もう一度何が幸せであり、人生の目標にすべきかを考え直す時期に来ている。アメリカの社会では、いかに株価を高めた経営者、すなわち、企業価値(時価総額)を大きくした経営者がもてはやされるが、こうした考えは人間が本来求める幸せの追求とは無縁のものである。惑わされてはいけない。しかも、いい製品を作るとか、優れたサービスを行うとかといった企業目標は、ROE(資本収益率)の効率を求める企業目標の後ろに隠れて、お題目化しつつある。ただ一国だけ、または一社だけわが道を行こうとしても会計基準や、資本のグローバル化の下にあがいてもつぶされるだけだ。行き着くところまで資本主義も流れやがて、次の新しいの価値観を求める時代へと激しく変化していく。企業資本主義の中身が、資本の効率だけを最大限追求ようになっていくと、いい製品や、優れたサービスは退化せざるを得ない。このためにも、やはり「会社は株主のものだ。」といった考えの資本主義の流儀を改めなければならない。いまや人々が生きるべき価値観、企業が従うべき価値基準をよく考えて、再構築しないことには、われわれの社会は押し流されて崩れかねない。

人々は、この世に生を受け、父母の恵み恩師の導きを経て成長しやがて社会に出て天職を授けられる。そして、幸せを求めて生きる。お金がないと惨めなのは、万人の知るところである。しかしお金がありすぎて不幸となることはわかりがたいことだ。そして経験してみても取り返しのつかない事態になっていることが多い。20世紀になって体制が資本主義に移行したときに社会のお金に対する行動原理が大きく変わったように、ポスト資本主義の社会に、また大きく変化する。近い将来に、革命的な機運がきっかけとなって世界人類は新しい時代に到達する。その時に備えて、米国型の価値観、価値基準の判断の行き詰まりを打開できるような価値判断の基準をわが国から世界に発信していくことができたらどんなによいだろうか。その時初めて、日本が本当に世界で必要とされるようになるのだ。今年からその一環として、わが国の中にあって世界に知られるべき価値基準の判断を示す論説を見つけ、欧米で多くの人々に読んでもらえる事業を始める。皆様方にも、力を貸してほしい。

はら じょうじ

原文人が大阪を出てからの歩み

原文人は、学生時代は中央アメリカの考古学の研究者をめざし、卒業後もエルサルバドル、グアテマラなどへ行って研究を続けました。26歳のときにさらに考古学研究を続けるための資金を作るにはビジネスと英語を学ぶべきだと考えからスタンフォード大学のビジネススクールMBAコースに入りました。そこで知ったベンチャーキャピタルという事に引かれこの仕事をするには、事業を自ら起こして経営する経験が大切との助言を受けたことから、自ら光ファイバー・ディスプレイシステムの開発メーカーを創業することになりました。そのために、スタンフォード工科大学大学院に転籍し在学中に自らの事業を起こしました。はじめは危うかった事業もスタンフォードの学生事業家として80年代前半アメリカの各誌に取り上げられるくらい大成功を収めることができました。1984年からは、ベンチャーキャピタル事業持株会社を創業し、85-95年代のシリコンバレーを代表する100社のIT関連ベンチャー(例えば、パソコンソフト分野で世界第3位となったボーランド社や、DVDチップで最大手となったゾーラン社など)のうち10%は、原氏が創業株主または取締役であるというくらい大きく米国の経済に貢献しました。95年からはコンピュータのないIT社会を完成させるためのIT企業を世界中で創業しています。こうした活動から、2003年にアメリカ合衆国の共和党全国委員会からビジネス・リーダーシップ・アワードを受賞し同時に、米財界団体のビジネス・アドバイザー・カウンセルの名誉共同議長に任命されブッシュ大統領のもとで就任式典が行われました。さらに先進国の援助資金を使わず民間だけの仕掛けで発展途上国の情報通信インフラを作って行く仕組みの提言を、2003年12月の国連世界情報社会サミット・ジュネーブ総会の発展途上国部会議長として行ないました。追手門の学生・卒業生には、原氏が議長を務める国際会議には、関心のあるものはみんなボランティアとして参加できるような仕組みを国連テクノロジー・テレコム会議、ラテンアメリカ諸国会議、中国情報通信会議などに対して呼びかけていますので、奮って参加してください。

経歴

デフタートナース事業持株会社グループ会長
欧米で活躍する日本人実業家、75年度大卒、中米考古学の研究を経て81年スタンフォード大学院工学修士。光ファイバー事業で成功を収め、85年からボーランド、オーブラス(インテルと合併)など数十社の先端技術分野の事業を数多く立ち上げた。デフタートナースは、現在サンフランシスコ、東京、ロンドン、テルアビブ、ソウルに拠点がある。

現在、国連Wafunit大使、米共和党ビジネスアドバイザー・カウンシル名誉共同会長、日本政府産業構造審議会委員、東京財団理事、原財団理事、など兼務。

90周年記念 総会・懇親会

新会員ご招待

日々活性化する山桜会も早くも設立90年を迎えました。そこで、今年の総会・懇親会は装いも新たに浪速のシンボルのひとつ「大阪天満宮」・天満宮会館で6月25日(日)開催されます。

更なる飛躍を祈念して、同天満宮本殿で祈祷が行われますと共に、90年という節目を記念して、小学校はもとより、追手門学院高校、追手門学院大手前高校を今春卒業、今後の山桜会を担う方々を無料招待させていただきます。

もちろん、一般会員の方や学生、保護者の方々も大歓迎! 一人でも多くのご参加をお待ちしています。

また、今回はあと10年で100周年を迎える山桜会により弾みと活力をつけるために90周年を記念した総会・懇親会のプログラムを作成する予定で、協賛金を募集中。個人1口、5千円以上、法人1口、1万円以上ですが、何口でもご協賛いただけます。ご協賛いただきました法人、個人のみなさまの個人名、法人名をプログラムに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。

尚、当日会場には駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用ください。



開催詳細

平成18年6月25日(日)

総会 10時30分～ 懇親会 12時～

会場 大阪天満宮

一般会員¥5,000 大学生¥3,000 高校生以下無料

申し込みお問い合わせ 06-6940-3481 山桜会事務局

湯浅卓雄氏指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団

校友会山桜会90周年 追手門学院創立120周年 記念コンサート

Anniversary Concert

追手門学院創立120周年・校友会山桜会90周年を記念してコンサートを開催いたします。オール追手門を合言葉に学院の保護者・生徒・教職員・山桜会・関係団体が丸となって集い、素晴らしいひとときをお過ごしいただきたいと思います。

コンサートには近年国際的に最も目覚しく活躍されている日本人指揮者の一人であり、本学院小学校卒業生(第73期)の湯浅卓雄氏をお招きいたします。多数のご参加をお願い申し上げます。

指揮者
湯浅 卓雄

Takao Yashinaka

現在、最も国際的な活躍が目覚ましい日本人指揮者の一人である湯浅卓雄は、大阪に生まれ、高校卒業と同時にアメリカに留学。シンナティ大学音楽院作曲理論科を経て、ウィーン国立音楽大学指揮科でハンス・スワロフスキー、フランコ・フェラーラ、イーゴリ・マルケヴィッチ、ロヴロ・フォン・マタチッチに師事。特に長年巨匠マタチッチのアシスタントを務めた。1976年 ウィーン・トンキュンストラー管弦楽団を指揮してデビュー。その後、欧州各地で着実に実績を重ねる一方、1984年から5年間群馬交響楽団指揮者も務めた。1989年には BBC スコットランド交響楽団首席客演指揮者に就任。常に大きな注目と高い評価を得ている。また、日本では1996年～2003年まで8回にわたり好評であった、大阪いずみホール主催のコンサートオペラ・シリーズを指揮。特に2003年に上演されたベートーヴェン「フィデリオ」は空前の盛り上がりを示して大成功を収めた。

2006年11月8日(水)

開場18:00 開演19:00 終了予定21:00

会場 ザ・シンフォニーホール(JR環状線 福島駅から徒歩5分)

入場料 大人 6,000円 / 児童・生徒・学生 4,000円

曲目 エルガー「威風堂々」・マーラー「交響曲第1番(巨人)」他

お問い合わせ先

学校法人 追手門学院
創立120周年記念事業事務局
TEL 072-641-9720
FAX 072-641-9538

コンサートの収益は創立120周年総会募金に充てさせていただきます。

のれん会 加盟店募集

ご案内

山桜会は卒業生の皆様から頂戴する入会金と年会費をもとに運営されております。その用途は母校への教育支援・会員交流事業・会報の発行等多岐に渡っております。

しかし、多くの会員の皆様にとって、年会費を納入することによりどのようなメリットが生じるのかということがあまり実感出来ないというのが実状であると思われます。そこで皆様により山桜会年会費納入にご理解をいただき、より山桜会への参加意識を持っていただきたいとの思いから、このたび「のれん会」を発足する運びとなりました。まず、山桜会会員・現役生徒の保護者・卒業生の保護者で飲食店を経営されている方に「のれん会」に加盟していただき、山桜会ホームページ・会報にて加盟店の情報を掲載します。そして、年会費を納入していただいた会員様には会員証を発行し、加盟店を利用する際に会員証を提示すれば、加盟店ごとの何らかのサービスを楽しむことができるようにしようというものです。(会員証については現在どのようなものが良いか検討中です)会員にとって年会費納入のメリットを実感することが出来まし、また加盟店にとっても会員との接点を持つことが出来、同業種交流にもつながります。

このたびの発足にあたり、記載の飲食業経営者の方々に加盟していただきました。今後多くの飲食業経営者の方々に加盟していただき、本会を活力のあるものにし、ひいては山桜会の活性化につなげていきたいと思っております。どうか本会の趣旨にご理解・ご賛同の上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。山桜会事務局までご連絡ください。

加盟店紹介

せんば「自由軒」
和食「さと」
新地本通 ごぜんや「食采」
北新地「BAR shunsuke」
南 串割烹「たから亭」
松屋町筋 Cafe Bar WHAT…?

山桜会事務局

TEL 06-6940-3814
FAX 06-6940-3482
E-mail office@yamazakurakai.com

山桜会 90周年記念パーティー

一部も三部も、学校・父兄・山桜会以外の一般の方も大歓迎!

日時 平成18年10月29日(日)

場所 リーガロイヤルホテル 光琳の間

第一部 午後4時30分受付 > 5時開始 > 6時30分終了

第二部 午後6時受付 > 6時30分開宴 > 8時30分お開き

会費 5千円(学生3千円・小学生以下無料)

第一部 記念シンポジウム

【タイトル】「オール追手門に向けて」

追手門学院は平成20年に創立120周年を迎えます。
この度、学校法人役員の方々とそれを支援する夫々の校友会役員のご出席をいただき、記念シンポジウムを開催することになりました。追手門学院の将来を皆で考えてみましょう。

司会	寺谷 一紀 様
出席者(予定)	大木追手門学院理事長 様 鈴木追手門学院長 様 追手門学院各校長 様 追手門学院大学校友会会長 様 追手門学院校友会山桜会会長 様

お申し込み

追手門小学校内山桜会事務局

TEL:06-6940-3481 FAX:06-6940-3482

E-mail office@yamazakurakai.com

第二部 懇親パーティー



人形浄瑠璃「三番叟」

唄で綴る山桜会90周年

同期や同年代の青春の唄を歌いまく
り90周年を大いに盛り上げましょう。
皆様の奮ってのご参加を期待して
おります。出場ご希望の方は、山桜会事
務局までお申し入れください。



福島天満宮「天神祭囃子」

学院創立120周年 記念グッズ・記念切手シート

ローソン大学店・幼、小、中、高給品部で好評発売中!



2008年に学院創立120周年を迎えるのを記念して、ロゴマークとイメージキャラクターを取り入れた記念グッズ9種類を取り揃えました。また、オリジナル記念切手シートには、追手門学院大学出身の芥川賞作家の宮本輝氏が『宮本輝ミュージアム』内のガラスに刻み込んだ『学生に送る詩』を明記いたしております。



●オリジナル記念切手シート
1,000円

- オリジナルネクタイ(エンジ・青) ……各2,500円
- オリジナルTシャツ(M・L・LL・3L) ……各1,000円
- 革製オリジナルキーホルダー ……500円
- 革製オリジナル携帯ストラップ ……350円
- 陶器製オリジナルマグカップ ……450円
- オリジナルハンドタオル ……300円
- オリジナルピンバッジ ……150円
- オリジナルうちわ ……120円



●京セラセラミックオリジナルボールペン
(ゴールド・シルバー) 各1,300円